

台東区独自の第三者評価の結果報告書を公表します。

認定こども園の第三者評価について

(1)「東京都福祉サービス第三者評価」における対象施設

- ・ 認可保育所・認証保育所・・・対象となる
- ・ 認定こども園・・・**対象とならない** ⇒ **独自の評価**

※認定こども園の「保育所部分」のみを「認可保育所」または「認証保育所」として評価を実施した場合は対象となる

(2) 台東区独自の第三者評価

今回、台東区で実施した認定こども園の評価については、「東京都福祉サービス第三者評価」における認可保育所の評価項目をベースとして、認定こども園独自の項目を追加しました。

また、東京都福祉サービス第三者評価と同様に、「東京都福祉サービス評価推進機構」の認証を得ている評価機関に評価を依頼しました。

石浜橋場こども園の第三者評価について

27年度は、公設公営の幼保連携型認定こども園『石浜橋場こども園』について第三者評価を実施しました。

認定こども園独自の項目として、幼稚園機能と保育園機能の一体的な提供や、子育て支援事業に関する項目等を追加しました。

公表の内容

ここで公表しているのは、「台東区独自の第三者評価」の結果報告書です。報告書の様式については、「東京都福祉サービス第三者評価」の結果報告書の様式を準用しています。

*****お問い合わせ*****

台東区教育委員会 学務課こども園担当
石浜橋場こども園

☎03(5246)1414
☎03(3876)0049

次のページより、「認定こども園第三者評価結果報告書」を公表します。

平成27年度第三者評価

評価結果報告書（概要版）

【台東区立石浜橋場こども園】

平成28年3月

株式会社にはほんの福祉ネット（機構06－167）

目次

こども園第三者評価の実施概要

I 利用者調査		1
II 事業評価		1
III 評価日程		2
IV 評価項目		2
V 評価結果の見方		3
VI 事業評価結果一覧		4

I. 第三者評価・実施報告書

担当者		21
全体の講評		23
事業者が特に力を入れている取り組み		24
I 組織マネジメント項目		25
II 教育・保育の実施のプロセス項目		33
III 教育・保育の実施項目		37
利用者調査（在園児保護者）		45

II. 利用者調査集計結果（保護者アンケート）

利用者調査集計結果（在園児保護者）		51
利用者調査集計結果（子育て支援事業の利用保護者）		61

III. 職員調査集計結果（職員アンケート）

職員調査集計結果の見方		65
職員調査集計結果		66

認定こども園第三者評価の実施概要

○評価手法：「利用者調査」および「事業評価」の2種類の手法で行った。

I 利用者調査

- 目的

実際にこども園を利用している保護者が、日々の幼児教育・保育に対して感じていることや意見、要望について把握する。

- 対象

調査票配布日現在の利用保護者の全世帯。

- 方法

アンケート調査を実施した。調査票の配付は、園を通じて保護者へ手渡し、回収は、園に設置した回収箱への投函、および、保護者から評価機関に対する直接の郵送を併用した。

II 事業調査

- 目的

組織としてのマネジメント力がどのような状況にあるか、また、現在実施されている教育・保育の質がどのような状況であるかについて把握する。

- 対象

調査票配布日現在の全職員（雇用形態は不問）。

- 方法

＜自己評価＞

○経営層：事業プロフィール、分析シート①（運営面）、分析シート②（教育・保育面）による自己評価を実施した。

○職員：アンケート調査を実施した。実施にあたっては、職員を対象とした評価機関による説明会を実施し、調査票を配布した上で、評価の実施の意義・アンケートへの回答方法の説明を行った。回収は、園に設置した回収箱への投函によった。

＜訪問調査・合議＞

①利用者調査集計結果、経営層及び職員の自己評価結果を事前に分析し、②評価機関の担当者3名による訪問調査により、園長、副園長、保育長に対するヒアリングおよび書類の確認を行い、③担当者による合議を行った。

Ⅲ 評価日程

事前説明	平成27年9月1日
職員調査	平成27年9月2日～9月14日
利用者調査	平成27年10月20日～11月4日
経営層自己評価	平成27年11月9日～12月28日
訪問調査	平成28年2月12日
合議	平成28年3月5日
評価結果のフィードバック	平成28年3月29日

Ⅳ 評価項目

事業評価は、東京都福祉サービス評価推進機構の定める認可保育所版の共通評価項目をもとに、認定こども園の実態を加味して、組織マネジメントに関する項目、および、教育・保育に関する項目を作成・使用した。項目の構成は、以下の通りである。

カテゴリー1	リーダーシップと意思決定	
カテゴリー2	経営における社会的責任	
カテゴリー3	保護者意向や地域・事業環境の把握と活用及び中長期目標と計画	
カテゴリー4	安全管理	
カテゴリー5	職員と組織の能力向上	
カテゴリー6	教育・保育の実施のプロセス	
	サブカテゴリー1	事業に関する情報の提供
	サブカテゴリー2	利用開始・終了時の対応
	サブカテゴリー3	計画の策定と着実な実行
	サブカテゴリー4	個別状況に応じた計画策定・記録
	サブカテゴリー5	教育・保育の実施項目
	サブカテゴリー6	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重
	サブカテゴリー7	こども園業務の標準化
カテゴリー7	情報の保護・共有	
カテゴリー8	カテゴリー1～7の活動成果	

V 評価結果の見方

事業評価の評点等は、次の通り定められている。

○カテゴリー1～7

各評価項目に属する標準項目について、実施が確認できたもの（満たしているもの）を○、実施が確認できないもの（満たしていないもの）を●で表し、それらを並べたものが評点である。

例 評価項目に属する標準項目が4つの場合

評点	評点基準
○○○○	標準項目をすべて満たしている状態
○○○●	標準項目を1つ満たしていない状態
○○●●	標準項目を2つ満たしていない状態
○●●●	標準項目を3つ満たしていない状態
●●●●	標準項目をすべて満たしていない状態

なお、標準項目を確認できた（満たしている）とすることができるのは、次のすべてを満たした場合である。

ア	事業者が当該事項を実施していること
イ	その実施が継続的（必要性を認識し、計画的）であること
ウ	その根拠が示せること

○カテゴリー8

カテゴリー8は、評価項目ごとに、事業者の取り組み状況及び活動成果に応じて、次のいずれかの評価を記してある。

1	改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている
2	改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果として現れていない
3	改善に向けた計画的な取り組みが行われていない

VI 事業評価結果一覧

組織マネジメント項目（カテゴリー1～5、7、8）	
No.	評価項目
1	カテゴリー1
	リーダーシップと意思決定
	サブカテゴリー1（1-1）
	認定こども園として目指していることの実現に向けて一丸となっている
	評価項目1
	園が目指していること（教育・保育理念、基本方針）を明確化・周知している
	自己評価
	標準項目
	あり 園が目指していること（理念・基本方針など）を明示している
	あり 園が目指していること（理念・基本方針など）について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている
	あり 園が目指していること（理念・基本方針など）について、保護者の理解が深まるような取り組みを行っている
	あり 重要な意思決定や判断に迷ったときに、園が目指していること（理念・基本方針など）を思い起こすことができる取り組みを行っている（会議中に確認できるなど）
	評価項目2
	管理者（認定こども園長）は自らの役割と責任を職員に対して表明し、こども園をリードしている
	自己評価
	標準項目
	あり 管理者（認定こども園長）は、自らの役割と責任を職員に伝えている
	あり 管理者（認定こども園長）は、自らの役割と責任に基づいて行動している
	評価項目3
	重要な案件について、管理者（認定こども園長）は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している
	自己評価
	標準項目
	あり 1. 重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている
	あり 2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している
	あり 3. 保護者に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている

2	カテゴリー2	
	経営における社会的責任	
	サブカテゴリー1 (2-1)	
	社会人・教育機関として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる	
	評価項目1	
	社会人・教育・保育に従事する者として守るべき法（就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律、児童福祉法、学校教育法、消防法、学校保健法、労働基準法等）・規範・倫理などを周知している	
	自己評価	標準項目
	あり	幼児教育に従事する者として守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳）などを明示している
	あり	全職員に対して、守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳）などの理解が深まるように取り組んでいる
	評価項目2	
	第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている	
	自己評価	標準項目
	あり	第三者による評価の結果公表、情報開示など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる
	あり	透明性を高めるために、地域の人々の目にふれやすい方法（園便り・会報など）で地域社会に園に関する情報を開示している
	サブカテゴリー2 (2-2)	
	地域の福祉に役立つ取り組みを行なっている	
	評価項目1	
	園の機能や幼児教育・福祉の専門性をいかした取り組みがある	
	自己評価	標準項目
	あり	園の機能や専門性は、子どもや保護者に支障のない範囲で地域の人に還元している（施設・備品等の開放、個別相談など）
	あり	地域の人や関係機関を対象に、園の機能や専門性をいかした企画・啓発活動（研修会の開催、講師派遣など）を行っている
	評価項目2	
	地域の関係機関との連携を図っている	
	自己評価	標準項目
	あり	地域の関係機関のネットワーク（事業者連絡会など）に参画している
	あり	地域ネットワーク内の共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている

3	カテゴリー3	
	保護者の意向や地域・事業環境の把握と活用及び中長期目標と計画	
	サブカテゴリー1 (3-1)	
	保護者の意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している	
	評価項目1	
	保護者一人ひとりの意向（意見・要望・苦情）を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む)	
	自己評価	標準項目
	あり	苦情解決制度を利用できることや園以外の相談先（第三者委員）を遠慮なく利用できる仕組みについて保護者に伝えている
	あり	保護者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる
	評価項目2	
	保護者の意向の集約・分析と教育・保育の向上への活用に取り組んでいる	
	自己評価	標準項目
	あり	保護者アンケートなど、園側からの働きかけにより保護者の意向を把握することに取り組んでいる
	あり	園が把握している保護者の意向を取りまとめ、保護者から見た教育・保育の現状・問題を把握している
	あり	保護者の意向を教育・保育の向上につなげることに取り組んでいる
	評価項目3	
	地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している	
	自己評価	標準項目
	あり	地域の幼児教育・保育や子育て支援に関するニーズの収集（地域での聞き取り、地域懇談会など）に取り組んでいる
	あり	幼児教育・保育事業全体の動向（行政や業界などの動き）の収集に取り組んでいる
	あり	園としての今後のあり方の参考になるように、地域の幼児教育・保育や子育て支援に関するニーズや幼児教育・保育事業全体の動向を整理・分析している
	サブカテゴリー2 (3-2)	
	こども園運営に関して、中長期的な計画や目標を策定している	
	評価項目1	
	外部環境、内部環境を踏まえて、こども園の中長期計画を作成している	
	自己評価	標準項目
	あり	事業運営に必要な情報を収集・分析し、中長期的な事業の方向性を定めた計画を作成している
	あり	次代の組織運営に備え、運営や教育・保育のプロセスの新たな仕組みを常に検討している
	あり	重要な情報は主要な職員間で共有するため会議等で議論し、重点改善課題として設定されている
	あり	運営に関し、外部の機関や専門家などの意見を取り入れる努力をしている

4	カテゴリー4	
	安全管理	
	サブカテゴリー1（4-1）	
	子どもの安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる	
	評価項目1	
	子どもの安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる ※事故、感染症の発生時などの対応、防犯・防災等	
	自己評価	標準項目
	あり	子どもの安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や施設内の役割分担を明示している
	あり	発生した事故や事故につながりやすい事例などをもとに、再発防止・予防対策を策定している
	あり	再発防止・予防対策の実践に向けて、職員、保護者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている
	あり	地震などの自然災害に対する防災対策を施すなど、施設・設備を安全で適切な状態にしている
	あり	不審者、外部からの侵入に対する対策がとられている
	あり	急な病気や感染症に対しての取組みの手順が明示されている

5	カテゴリー5	
	職員と組織の能力向上	
	サブカテゴリー1（5-1）	
	こども園が目指している経営・教育・保育を実現する人材の確保・育成に取り組んでいる	
	評価項目1	
	園にとって必要な人材構成にしている	
	自己評価	標準項目
	あり	園の人事制度に関する方針（人材像、職員育成・評価の考え方）を明示している
	あり	園が必要とする人材を踏まえた採用を行っている
	あり	適材適所の人員配置に取り組んでいる
	評価項目2	
	職員の質の向上に取り組んでいる	
	自己評価	標準項目
	あり	職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している
	あり	園の人材育成計画と職員一人ひとりの意向に基づき、個人別の育成（研修）計画を策定している
	あり	個人別の育成（研修）計画は、職員の技術水準、知識、専門資格の習得（取得）などの視点を入れて策定している
	あり	職員一人ひとりの個人別の育成（研修）計画に基づいて、必要な支援をしている
	あり	職員の研修成果を確認し（研修時・研修直後・研修数ヶ月後など）、研修が本人の育成に役立ったかを確認している
	サブカテゴリー2（5-2）	
	職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる	
	評価項目1	
	職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる	
	自己評価	標準項目
	あり	職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している
	あり	職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる
	あり	職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる

評価項目2	
職員のやる気向上に取り組んでいる	
自己評価	標準項目
あり	職員一人ひとりの取り組みを評価し、課題の発見や目標設定、研修や自己研鑽の計画に結びつけるなど、総合的な人材育成の視点を持った工夫を行っている
あり	就業状況（勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど）を把握し、改善に取り組んでいる
あり	職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる
あり	福利厚生制度の充実に取り組んでいる
評価項目3	
円滑なコミュニケーションを図り、組織として質の向上に取り組んでいる	
自己評価	標準項目
あり	定期的な職員会議などを通して、話し合い、評価・反省を行い、次の保育に活かす体制がある
あり	自分の教育・保育を他の職員に見てもらい、互いに検討しあう機会や仕組みをつくっている
あり	自園のテーマや重点項目等を決め、継続的に研究を行っている
7 カテゴリー7	
情報の保護・共有	
サブカテゴリー1（7-1）	
情報の保護・共有に取り組んでいる	
評価項目1	
こども園が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる	
自己評価	標準項目
あり	情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定している
あり	収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・保管している
あり	保管している情報の状況を把握し、使いやすいように更新している
評価項目2	
個人情報とは、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している	
自己評価	標準項目
あり	園で扱っている個人情報の利用目的を明示している
あり	個人情報の保護に関する規程を明示している
あり	開示請求に対する対応方法を明示している
あり	個人情報の保護について職員（実習生やボランティアを含む）が理解し行動できるための取り組みを行っている

8	カテゴリー8	
	カテゴリー1～7に関する活動成果	
	サブカテゴリー1（8-1）	
	前年度と比べ、こども園の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している	
	評価項目1	自己評価
	前年度（比較が困難な場合は可能な期間で）と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている ・カテゴリー1：「リーダーシップと意思決定」 ・カテゴリー2：「経営における社会的責任」 ・カテゴリー4：「安全管理」	改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として表れている
	サブカテゴリー2（8-2）	
	前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している	
	評価項目1	自己評価
	前年度（比較困難な場合は可能な期間で）と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている ・カテゴリー5：「職員と組織の能力向上」	改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として表れている
	サブカテゴリー3（8-3）	
	前年度と比べ、教育・保育の実施のプロセスの面において向上している	
	評価項目1	自己評価
	前年度（比較困難な場合は可能な期間で）と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている ・カテゴリー6：「教育・保育の実施のプロセス」	改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として表れている
	サブカテゴリー4（8-4）	
	前年度と比べ、保護者の満足や意向の把握等の面で向上している	
	評価項目1	自己評価
	前年度（比較が困難な場合は可能な期間で）と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分において改善傾向を示している ・カテゴリー3：「保護者の意向や地域・事業環境などの把握と活用」	改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として表れている

	教育・保育の実施のプロセス（カテゴリー6）	
6	カテゴリー6	
	教育・保育の実施のプロセス項目	
No.	評価項目	
1	サブカテゴリー1	
	事業に関する情報の提供	
	評価項目1	
	保護者等に対して教育・保育、その他の事業内容の情報を提供している	
	自己評価	標準項目
	あり	保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている
	あり	園の情報を、行政や関係機関等に提供している
	あり	保護者の問合せや見学があった場合には、個別の状況に応じて対応している
2	サブカテゴリー2	
	利用開始・終了時の対応	
	評価項目1	
	利用の開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている	
	自己評価	標準項目
	あり	利用の開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している
	あり	教育・保育内容について、保護者の同意を得るようにしている
	あり	教育・保育に関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している
	評価項目2	
	利用の開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援している	
	自己評価	標準項目
	あり	利用開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している
	あり	利用開始直後には、子どもの不安やストレスを軽減するよう配慮している
	あり	利用前の生活をふまえた支援をしている
	あり	利用終了時（就学を除く）には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援をしている

3	サブカテゴリー3	
	計画の策定と着実な実行	
	評価項目1	
	こども園としての教育課程は、理念・基本方針の基づき策定されている	
	自己評価	標準項目
	あり	教育課程の策定にあたっては、全職員がかかわっている
	あり	教育・保育の基本方針や地域の実態を踏まえて策定している
	あり	就労状況など保護者の実情を考慮して策定している
	あり	教育課程は入園時や年度当初、改定時に保護者に説明している
	評価項目2	
	子どもの発達や状況に応じた指導計画を作成している	
	自己評価	標準項目
	あり	年齢ごとに指導計画を作成している
	あり	子どもの発達や状況に応じて指導計画の作成・評価・見直しを行っている
	あり	評価・改訂にあたっては、複数の職員が参画している
	あり	評価・改訂にあたっては、保護者の意向も反映している

4	サブカテゴリー4	
	個別状況に応じた計画策定・記録	
	評価項目1	
	定められた手順に従ってアセスメントを行い、子どもの課題を個別の援助場面ごとに明示している	
	自己評価	標準項目
	あり	子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している
	あり	子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している
	あり	アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている
	評価項目2	
	子どもの様子や保護者の希望、関係者の意見を取り入れた指導計画を作成している	
	自己評価	標準項目
	あり	計画は、保育課程を踏まえて、養護（生命の保持・情緒の安定）と教育（健康・人間関係・環境・言葉・表現）の各領域を考慮して作成している
	あり	計画は、子どもの様子や保護者の希望を尊重して作成、見直しをしている
	あり	計画を保護者にわかりやすく説明している
	あり	計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている
	あり	計画を緊急に変更する場合のしくみを整備している
	評価項目3	
	子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している	
	自己評価	標準項目
	あり	子ども一人ひとりに関する情報を過不足なく記載する仕組みがある
	あり	計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している
	評価項目4	
	子どもの状況等に関する情報を職員間で共有している	
	自己評価	標準項目
	あり	計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している
	あり	子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している

5	サブカテゴリー5	
	教育・保育の実施項目	
	評価項目1	
	子どもの発達を促すための保育を行っている	
	自己評価	標準項目
	あり	子ども一人ひとりの発達の過程や生活環境などにより子どもの全体的な姿を把握している
	あり	子どもの自主性、自発性を尊重し、遊び込める時間の配慮をしている
	あり	多様な表現活動や園外活動を計画している
	あり	文化や習慣の違いなどを認め、互いを尊重する心を育てる工夫をしている
	あり	障害のある子どもの保育にあたっては、一人ひとりの障害の種類、特性に応じた保育ができるように配慮している
	あり	異年齢保育を効果的に取り入れている
	評価項目2	
	幼稚園と保育園の機能が一体的に提供されている	
	自己評価	標準項目
	あり	短時間保育枠で入園した子どもと長時間保育枠で入園した子ども同士が、区別なく教育・保育を受ける工夫がされている
	あり	登園時間、降園時間の違いなどにかかわらず、集団としての教育・保育を実施している
	あり	短時間保育利用の保護者と長時間保育利用の保護者の交流に努めている
	あり	保護者の就労の有無や形態にかかわらず、それぞれの機能が必要に応じて提供されている
	評価項目3	
	適切な教育環境を整えている	
	自己評価	標準項目
	あり	全身を使って活動することができる環境を整えている
	あり	人と関わる力が育つよう配慮している
	あり	さまざまな活動や体験をするのに適切な環境を整えている
	あり	身近な自然や社会とかわかることができるよう配慮している
	あり	伝え合う喜びを味わったり、言葉に対する感覚が養われたりするよう配慮している
	あり	生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れられるような環境を工夫している
	あり	さまざまな表現を楽しみ、表現する意欲を十分発揮させることができるような環境を整えている
	あり	日常の保育の中で、文字・言葉や数量・図形などが、遊びとして無理なく自然にとりいれている
	評価項目4	

栄養バランスを考慮したうえで、おいしい食事を出している	
自己評価	標準項目
あり	メニューや味付けなどに工夫を凝らしている
あり	子どもの状態にあった椅子・テーブル等を用意している
あり	食物アレルギーや文化・習慣の違いなど、個別に配慮した食事を提供している
あり	快適に食事ができるように環境面でも配慮している
あり	適温給食を心がけているか
非該当	【0歳児を受け入れている保育所のみ】 乳児の授乳や食事に関しては、乳児一人ひとりの状況やリズムに合わせて行っている
評価項目5	
子どもが心身の健康を回復・維持するための支援を行っている	
自己評価	標準項目
あり	子どもの健康状態を定期的に記録し、把握している
あり	乳幼児突然死症候群（SIDS）、感染症等を予防する仕組みがある
あり	医療的なケアが必要な子どもに対し、支援できる体制を確保している
あり	保護者に対して感染症や乳幼児突然死症候群（SIDS）等に関する情報を提供し、予防に努めている
評価項目6	
園内の生活が、子どもにとって楽しく快適なものになる工夫を行っている	
自己評価	標準項目
あり	子どもが園の生活を楽しめる工夫をしている（誕生会、季節の行事など）
あり	園内は快適で落ち着ける環境・空間にしている（清潔さ、採光、換気、照明等）
あり	お昼寝は子どもの状況に合わせる工夫をしている

評価項目7	
施設と家庭との交流・連携を緊密に行っている	
自己評価	標準項目
あり	保護者などが常時参観できる仕組みがある
あり	便り、クラス別保護者会などを活用し、子どもの園での生活ぶりを家庭に紹介している
あり	保護者の事情に応じて、柔軟な対応をしている
あり	幼稚園利用の保護者、保育園利用の保護者がともに施設の行事などに参加しやすい工夫を行っている
あり	保護者からの相談に応じる体制を整えている
評価項目8	
虐待防止の取り組みや育児困難家庭への支援を行っている	
自己評価	標準項目
あり	虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている
あり	職員が、虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや虐待の事実を把握をした際には、組織としての速やかな対応を決定する体制を整えている
あり	虐待を受けている疑いのある子どもと保護者の情報は、児童相談所、子ども家庭支援センターなど関係機関に照会、通告を行い、その後も連携できるような体制を整えている
あり	子どもの発達や育児などについて、懇談会や勉強会を開催し、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている
評価項目9	
地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている	
自己評価	標準項目
あり	保護者が要望する地域の情報を利用しやすいかたちで提供している
あり	園の活動や行事に地域の人々の参加を呼びかける、地域の行事や活動に参加できるよう配慮する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している
あり	地域の文化・レクリエーション施設等を利用している
あり	他の園や福祉施設等との交流を図っている
あり	地域の町会やボランティア団体、高齢者クラブ等の活動に子どもが参加できないか相談するなど、積極的な交流に向けて取り組んでいる
あり	地域の人たちと接する機会（散歩・買い物等）に積極的に交流を図っている

評価項目10	
地域のニーズに対応した子育て支援事業を行っている	
自己評価	標準項目
あり	未就園児が親子で登園する日を設けている
あり	在園児のほか地域の保護者からの教育・保育に関する相談を受け入れている
あり	保護者のニーズに対応した預かり保育を実施している
あり	一時保育事業を実施している
あり	その他、多様な子育て支援事業を実施している
評価項目11	
小学校との連携	
自己評価	標準項目
あり	小学校の教育内容について理解するための取り組みを行っている
あり	卒園した子どもの情報を得るよう努めている
あり	地域の小学校の行事への参加等、交流活動に取り組んでいる
あり	認定こども園こども要録を適正に記入し、小学校に送っている

6	サブカテゴリー6	
	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	
	評価項目1	
	子どものプライバシー保護を徹底している	
	自己評価	標準項目
	あり	子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている
	あり	子どもの羞恥心に配慮した支援をしている
	評価項目2	
	教育・保育の実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している	
	自己評価	標準項目
	あり	日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している
	あり	子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に対策を検討し、対応している
	あり	子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている
	評価項目3	
	障害児を受け入れるにあたり、保育内容の配慮を行っている	
	自己評価	標準項目
	あり	医療機関や専門機関と連携して、相談・指導・助言を得る体制がある
	あり	障害児保育について全職員で学習し、話し合える体制ができている
	あり	障害児と障害のない子どもとの関わりに配慮している

7	サブカテゴリー7	
	こども園業務の標準化	
	評価項目1	
	手引書等を整備し、こども園業務の標準化を図るための取り組みをしている	
	自己評価	標準項目
	あり	手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、園が実施している教育・保育の基本事項や手順等を明確にしている
	あり	実施している教育・保育が定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを点検している
	あり	職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している
	評価項目2	
	教育・保育の向上をめざして、こども園の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている	
	自己評価	標準項目
	あり	実施している教育・保育の基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている
	あり	実施している教育・保育の基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案を反映するようにしている
	あり	職員一人ひとりが工夫・改善した教育・保育の事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる
	評価項目3	
	さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している	
	自己評価	標準項目
	あり	打合せや会議等の機会を通じて、教育・保育の基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている
	あり	職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している
	あり	職員全員が、子どもの安全性に配慮した支援ができるようにしている
	あり	職員一人ひとりの教育・保育の実施方法について、指導者が助言・指導している
	あり	職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている

I. 第三者評価・実施報告書

平成28年3月31日

評価結果報告書

郵便番号	156-0043		
所在地	東京都世田谷区松原3-38-16-107		
評価機関名	株式会社にはんの福祉ネット		
認証評価機関番号		機構	06 - 168
電話番号	03-3323-8368		
代表者氏名	永峯治寿		印

評価者氏名・担当分野・ 評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①		教育・保育	H1002028
	②		教育・保育	H1302047
	③		組織	H0901022
	④		組織	H0802010
事業種別	認定こども園			
調査対象事業所名称	台東区立石浜橋場こども園			
事業所連絡先	郵便番号	111-0023		
	所在地	東京都台東区橋場1丁目35番1号		
	電話番号	03-3876-0049		
事業所代表者氏名	園長 五十畑貴以子			
事前説明	平成27年9月1日			
職員調査	平成27年9月2日～9月14日			
利用者調査	平成27年10月20日～11月4日			
経営層自己評価	平成27年11月9日～12月28日			
訪問調査	平成28年2月12日			
合議	平成28年3月5日			
フィードバック	平成28年3月29日			

評価機関から上記及び別紙の調査結果を含む調査結果報告書を受け取りました。

平成 28 年 3 月 31 日

事業者代表者氏名 園長 五十畑貴以子

全体の評価講評

No.	特に良い点	
1	タイトル	計画的かつ一貫した運営および教育・保育の実践がある
	内容	一年間の教育・保育の全体計画である教育課程を作成し、取り組みの根底をなす教育目標、重点目標を明らかにしている。その上で、経営計画に基づく取り組みについて自己評価を行っている。そして、各自の視点で分析を行い、改善策を策定することを通して、取り組みの向上を図っている。理念・方針・目標に基づき、計画（Plan）→実行（Do）→評価（Check）→改善（Act）のサイクルに則ってその実現を図る、計画的かつ一貫した運営および教育・保育の実践がある。
2	タイトル	子どもと大人が共有できる教育目標を掲げ、その実践に取り組んでいる
	内容	教育課程に示された目標は「げんきいっぱい えがおいっぱい」「じぶんもだいすき みんなもだいすき」「ときどきはっけん わくわくちょうせん」「もぐもぐかんで もりもりたべる」の4つである。これらを、「げんき！ ゆうき！ だいすき！」の3つに集約し、その実現に取り組んでいる。分かりやすい言葉で表現されたことにより、子ども同士の会話でも「勇氣、だろ！」と励ます場面で使用されるなど、日常の中で実践されている。
3	タイトル	目指す教育・保育の実現に向けた関わりが、子どもの健やかな成長・発達につながっている
	内容	こども園が果たすべき役割をしっかりと捉えた上で、教育・保育目標を掲げている。子どもや保護者、地域、職員を大切にし、その全てが子どもの健やかな成長、豊かな発達につながる取り組みがある。子どもの権利を教育・保育計画に位置づけ、年間指導計画をはじめとする諸計画に基づき、各年齢の子どもの姿を捉え、それぞれの主体性、自主性、積極性、感性、創造性などの発達につながる実践的な関わりを持っている。一貫した視点に基づく教育・保育の展開が、子どもの健やかな成長・発達につながっている。
No.	今後力を入れていく取り組み	
1	タイトル	保護者に伝えるべき事柄の明確化と、それを踏まえた方法の工夫を行っていく
	内容	送迎時の対応や連絡帳、面談など、様々な機会を捉えて保護者との連携を図っている。送迎の際の限られた時間においては、怪我やトラブルなどの伝達が優先的になってしまうこともある。日常の中では、何かを達成したり、友達とのかかわりの中で思いやりや優しさを見せたりするなど、子どもが成長していく姿がある。今後は、保護者に伝えたいこと、伝えるべき内容について改めて確認し、より良い伝達のために工夫を行っていくことで、直接・間接を問わず、保護者とのコミュニケーションをより充実させていくことを課題としている。
2	タイトル	ねらいをより一層明確にしていく
	内容	あらゆる取り組みには、すべて、ねらいや根拠がある。これは、教育・保育が、公的な制度として行われること、子どもの成長に資する援助を行う必要があること、教育・保育の質の向上を図っていく責任があることなどに由来する。今後も、日頃の取り組みが何を根拠として行われているのかをより意識的に確認し、全体の中で個々の取り組みを位置づけ直していくことで、改めて教育・保育の基盤を整え、日頃の取り組みを全体の向上につなげていくことを課題としている。
3	タイトル	園内研究の成果を今後活かしていく
	内容	今年度は、全学年共通のテーマを設定し、実践と考察を積み重ねることで、教育・保育の向上を図ってきた。1歳から5歳までの発達の連続性を踏まえた上で、主な遊びを取り上げ、設定したねらいに基づき環境や援助のポイントを設定し、子どもの姿や指導内容に対する考察・振り返りを行ってきた。今後は、これらの取り組みを活かしていくために、改めて検証を行い、取り組みの成果を次年度以降の教育・保育に一層活かしていくことを課題としている。

特に力を入れている取り組み

特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-2-2	利用の開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援している
タイトル①	スムーズな進級のためのきめ細かな配慮を行っている	
内容①	園では乳児棟と幼児棟に分かれて生活をしている。1歳児から5歳児までの継続した関わりを確実に提供するために、特に2歳児から3歳児への進級に関しては慎重に対応している。3歳児クラスでの入園児にも配慮しつつ、在籍している2歳児クラスの子どもには、進級に向けて、好きな遊びを見つけられる、楽しい時はいっぱい笑う、2～3人で遊ぶ、してほしい事を言葉で伝える、嫌な事は嫌と言う、助けを求められる等が出来るように、子どもや保護者に寄り添っている。保護者も不安や緊張の中、クラス担任と連携しながら進級に向けて取り組んでいる。	

特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-5-3	適切な教育環境を整えている
タイトル②	豊かな環境を子どもに提供し、自然を取り込んだ活動を実施している	
内容②	魅力ある教育活動の一つとして、今年度、自然案内の専門家の協力を得て、子どもの興味を活かして今ある環境を工夫し、虫や鳥をより身近に感じられるような環境作りに取り組んだ。これにより、今まで以上に虫や鳥への子どもたちの関心が強くなり、自然を取り込んだ活動が一層充実している。各クラスで花を育てたり、親子で野菜の栽培を体験したり、一人一鉢を任されて親子で生長を楽しむにしながら収穫して食べる喜びにもつなげている。	

特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-9	地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている
タイトル③	地域の中で見守られながら育つ姿がある	
内容③	園は住宅街に隣接しており、地域の中での存在が根づいている。乳児クラスでは天気が良ければ園外に出かけることが多く、出会う方々と挨拶を交わし温かく見守られている事が実感できる。行事毎に地域町会の方々、青少年委員、民生委員、敬老会の方々などによる来園もあり、多様な方々との関わりの中で子どもが成長していく姿がある。3月の5歳児クラスの修了式には、子どもたちが、自分たちの言葉で地域の方々に向けて感謝の気持ちを伝えている。春の桜まつりをはじめ、おまつりや盆おどり、敬老会との交流会、江戸ながし雛などの行事にも参加するなど、地域の一員としての存在を確かなものになっている。	

特に力を入れている取り組み④		
評価項目	6-4-2	子どもの様子や保護者の希望、関係者の意見を取り入れた指導計画を作成している
タイトル④	確固たる根拠に基づき、保育内容を保護者に説明している	
内容④	乳児については、個別の指導計画の一環として「子育てカード」を作成している。これは、毎月の目標を園と保護者とで共有するためのしくみであり、目標は、家庭でも意識できる内容としている。保護者に対する計画の説明という明確な根拠に立った上で、園と家庭とがともに子育てをしていく姿勢を明らかにし、実践している。	

組織マネジメント項目（カテゴリー1～5、7、8）		
No.	評価項目	
	カテゴリー1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1（1-1）	
	認定こども園として目指していることの実現に向けて一丸となっている	
	評価項目1	
	園が目指していること（教育・保育理念、基本方針）を明確化・周知している	評点（〇〇〇〇）
	評価	標準項目
	あり	園が目指していること（理念・基本方針など）を明示している
	あり	園が目指していること（理念・基本方針など）について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている
	あり	園が目指していること（理念・基本方針など）について、保護者の理解が深まるような取り組みを行っている
	あり	重要な意思決定や判断に迷ったときに、園が目指していること（理念・基本方針など）を思い起こすことができる取り組みを行っている（会議中に確認できるなど）
	評価項目2	
	管理者（認定こども園長）は自らの役割と責任を職員に対して表明し、こども園をリードしている	評点（〇〇）
	評価	標準項目
	あり	管理者（認定こども園長）は、自らの役割と責任を職員に伝えている
	あり	管理者（認定こども園長）は、自らの役割と責任に基づいて行動している
	評価項目3	
	重要な案件について、管理者（認定こども園長）は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している	評点（〇〇〇）
	評価	標準項目
	あり	1. 重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている
	あり	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している
	あり	3. 保護者に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている
	カテゴリー1の講評	
	追求すべき価値を明確化し、その実現に取り組んでいる	
	台東区立こども園としての理念、当園としての目標、教育・保育のポイントを定め、ホームページや要覧などを通して発信している。また、一年間の教育・保育の全体計画である教育課程を作成し、取り組みの根拠をなす教育目標、重点目標を明らかにしている。その上で、「子どもの最善の利益」を共通の目標とし、その実現に向けて、一人ひとりの力を発揮し、役割を果たすべく取り組んでいる。	
	職員・保護者双方への目標の浸透を図っている	
	教育目標をもとにして、目指す子ども像について検討することを通して、目指す事柄を日常の中で職員一人ひとりが意識し、実践していけるよう、取り組んでいる。保護者に対しては、保護者会や参観時に伝え、ともに唱和することなどを通じて、園の取り組みの背後にある思いを伝え、理解を促し、共通認識に立って園運営を進めていけるように取り組んでいる。	

2	カテゴリー2	
	経営における社会的責任	
	サブカテゴリー1 (2-1)	
	社会人・教育機関として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる	
	評価項目1	
	社会人・教育・保育に従事する者として守るべき法（就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律、児童福祉法、学校教育法、消防法、学校保健法、労働基準法等）・規範・倫理などを周知している	評点（〇〇）
	評価	標準項目
	あり	幼児教育に従事する者として守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳）などを明示している
	あり	全職員に対して、守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳）などの理解が深まるように取り組んでいる
	評価項目2	
	第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている	評点（〇〇）
	評価	標準項目
	あり	第三者による評価の結果公表、情報開示など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる
	あり	透明性を高めるために、地域の人の目にふれやすい方法（園便り・会報など）で地域社会に園に関する情報を開示している
	サブカテゴリー2 (2-2)	
	地域の福祉に役立つ取り組みを行なっている	
	評価項目1	
	園の機能や幼児教育・福祉の専門性をいかした取り組みがある	評点（〇〇）
	評価	標準項目
	あり	園の機能や専門性は、子どもや保護者に支障のない範囲で地域の人に還元している(施設・備品等の開放、個別相談など)
	あり	地域の人や関係機関を対象に、園の機能や専門性をいかした企画・啓発活動（研修会の開催、講師派遣など）を行っている
	評価項目2	
	地域の関係機関との連携を図っている	評点（〇〇）
	評価	標準項目
	あり	地域の関係機関のネットワーク（事業者連絡会など）に参画している
	あり	地域ネットワーク内の共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている
	カテゴリー2の講評	
	「教職員に求められる人権感覚」を明確化し、浸透を図っている	
	園としての取り組みの見通しを「人権教育の構図」として示している。その中で、人権教育の目標、目指す幼児像、人権教育活動の方針を定めている。また、幼児や保護者の呼び方、不用意な言葉、指導という名の不適切な指導、配慮に欠ける作品の扱い、公的な資料に掲載する表現、不適切な個人情報の管理、見逃せない虐待など、留意すべき事項を「教職員に求められる人権感覚」としてまとめ、年度当初に園長より職員全体に発信している。	
	園の機能や専門性を活かして子育て支援を展開している	
	地域の未就学児・保護者を対象とした教育・保育体験や園庭開放などを計画的に実施している。また、それらに合わせて、身体測定を実施したり、子育て相談に対応したりしている。園の機能や専門性を活かしたこうした取り組みを通して、子育ての悩みや不安の解消、参加者間の関係の構築など、地域の子育て家庭に対する支援を展開している。	

3	カテゴリー3	
	保護者の意向や地域・事業環境の把握と活用及び中長期目標と計画	
	サブカテゴリー1 (3-1)	
	保護者の意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している	
	評価項目1	
	保護者一人ひとりの意向（意見・要望・苦情）を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む)	評点（〇〇）
	評価	標準項目
	あり	苦情解決制度を利用できることや園以外の相談先（第三者委員）を遠慮なく利用できる仕組みについて保護者に伝えている
	あり	保護者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる
	評価項目2	
	保護者の意向の集約・分析と教育・保育の向上への活用に取り組んでいる	評点（〇〇〇）
	評価	標準項目
	あり	保護者アンケートなど、園側からの働きかけにより保護者の意向を把握することに取り組んでいる
	あり	園が把握している保護者の意向を取りまとめ、保護者から見た教育・保育の現状・問題を把握している
	あり	保護者の意向を教育・保育の向上につなげることに取り組んでいる
	評価項目3	
	地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している	評点（〇〇〇）
	評価	標準項目
	あり	地域の幼児教育・保育や子育て支援に関するニーズの収集（地域での聞き取り、地域懇談会など）に取り組んでいる
	あり	幼児教育・保育事業全体の動向（行政や業界などの動き）の収集に取り組んでいる
	あり	園としての今後のあり方の参考になるように、地域の幼児教育・保育や子育て支援に関するニーズや幼児教育・保育事業全体の動向を整理・分析している
	サブカテゴリー2 (3-2)	
	こども園運営に関して、中長期的な計画や目標を策定している	
	評価項目1	
	外部環境、内部環境を踏まえて、こども園の中長期計画を作成している	評点（〇〇〇〇）
	評価	標準項目
	あり	事業運営に必要な情報を収集・分析し、中長期的な事業の方向性を定めた計画を作成している
	あり	次代の組織運営に備え、運営や教育・保育のプロセスの新たな仕組みを常に検討している
	あり	重要な情報は主要な職員間で共有するため会議等で議論し、重点改善課題として設定されている
	あり	運営に関し、外部の機関や専門家などの意見を取り入れる努力をしている
	カテゴリー3の講評	
	保護者の意向などを踏まえて取り組みの見直しや強化につなげている	
	保護者を対象に年2回アンケート調査を行い、運営や教育・保育について意向を収集している。また、面談や懇談の機会を通して、直接、意見や要望を把握している。こうして得られた声をもとに、必要な対応を検討し、取り組みの見直しや強化につなげている。	
	教育目標の実現に向けて、計画的かつ意識的に取り組んでいる	
	園としての一年間の取り組みを「経営案」として明確化している。子どもがのびのびと遊び、自己発揮をし、自己肯定感を持てるような環境作りに努めること、また、遊ぶ楽しさ、多様な動きを体験できる環境作りに努め、乳児からの体の動きや身体作り、食育、生活習慣、生活リズムなど健康につなげること、これらについて組織的に取り組むことを定めている。その上で、それらを実現するために必要な、人的環境や施設環境、物的環境、生活環境、園内研究、教育現場の組織などのあり方や方法を具体化し、計画的かつ意識的に取り組んでいる。	

4	カテゴリー4		
	安全管理		
	サブカテゴリー1（4-1）		
	子どもの安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる		
	評価項目1		
	子どもの安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる ※事故、感染症の発生時などの対応、防犯・防災等		評点（〇〇〇〇〇）
	評価	標準項目	
	あり	子どもの安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や施設内の役割分担を明示している	
	あり	発生した事故や事故につながりやすい事例などをもとに、再発防止・予防対策を策定している	
	あり	再発防止・予防対策の実践に向けて、職員、保護者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている	
	あり	地震などの自然災害に対する防災対策を施すなど、施設・設備を安全で適切な状態にしている	
	あり	不審者、外部からの侵入に対する対策がとられている	
	あり	急な病気や感染症に対しての取組みの手順が明示されている	
	カテゴリー4の講評		
	安全な施設環境の維持に取り組んでいる		
	年度ごとの安全指導計画を策定し、年間のねらいを設定した上で、生活・安全指導や交通安全指導を行っている。また、安全点検表に基づき、保育室や水道、トイレなどの点検を行い、安全な施設環境の維持に努めている。そのほか、避難訓練計画表にて定めたねらいや配慮点を踏まえて、定期的に避難訓練を実施し、危機への対応力の維持・向上を図っている。		
	危機管理体制を整えている		
	危機対応の手順については、地震や火災、防犯、急病と怪我などの各場面における対応方法、および、平常時における対策などについて、あらかじめ明確化している。また、事故や怪我についても、発見・把握・報告・事後・記録・説明からなる一連の手順を明確化している。事故や事故に至らない事例（ヒヤリハット）については、発生した時間帯や場所、内容、原因などについて網羅的に記録し、再発防止に活かしている。		

5	カテゴリー5	
	職員と組織の能力向上	
	サブカテゴリー1 (5-1)	
	こども園が目指している経営・教育・保育を実現する人材の確保・育成に取り組んでいる	
	評価項目1	
	園にとって必要な人材構成にしている	評点 (〇〇〇)
	評価	標準項目
	あり	園の人事制度に関する方針（人材像、職員育成・評価の考え方）を明示している
	あり	園が必要とする人材を踏まえた採用を行っている
	あり	適材適所の人員配置に取り組んでいる
	評価項目2	
	職員の質の向上に取り組んでいる	評点 (〇〇〇〇〇)
	評価	標準項目
	あり	職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している
	あり	園の人材育成計画と職員一人ひとりの意向に基づき、個人別の育成（研修）計画を策定している
	あり	個人別の育成（研修）計画は、職員の技術水準、知識、専門資格の習得（取得）などの視点を入れて策定している
	あり	職員一人ひとりの個人別の育成（研修）計画に基づいて、必要な支援をしている
	あり	職員の研修成果を確認し（研修時・研修直後・研修数ヶ月後など）、研修が本人の育成に役立ったかを確認している
	サブカテゴリー2 (5-2)	
	職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる	
	評価項目1	
	職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる	評点 (〇〇〇)
	評価	標準項目
	あり	職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している
	あり	職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる
	あり	職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる
	評価項目2	
	職員のやる気向上に取り組んでいる	評点 (〇〇〇〇)
	評価	標準項目
	あり	職員一人ひとりの取り組みを評価し、課題の発見や目標設定、研修や自己研鑽の計画に結びつけるなど、総合的な人材育成の視点を持った工夫を行っている
	あり	就業状況（勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど）を把握し、改善に取り組んでいる
	あり	職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる
	あり	福利厚生制度の充実に取り組んでいる

評価項目3		
円滑なコミュニケーションを図り、組織として質の向上に取り組んでいる		評点（〇〇〇〇）
評価	標準項目	
あり	定期的な職員会議などを通して、話し合い、評価・反省を行い、次の保育に活かす体制がある	
あり	自分の教育・保育を他の職員に見てもらい、互いに検討しあう機会や仕組みをつくっている	
あり	自園のテーマや重点項目等を決め、継続的に研究を行っている	
カテゴリー5の講評		
目標の設定、自己評価、分析、改善策の策定のプロセスを通して向上を図っている		
経営計画に基づく取り組みについて自己評価を行うことで、園運営および職員育成の両面において、目標管理的な進行を確保している。教育目標ごとに、中間および短期の教育目標、目標を実現するための具体的な方策を決定した上で、取り組みに関する目標、および、成果に関する目標をそれぞれ設定し、評価を行っている。そして、各自の視点で分析を行い、改善策を策定することを通して、取り組みの向上を図っている。		
テーマに基づく実践と検証を積み重ねることで、教育・保育の向上を図っている		
全学年共通のテーマを設定し、実践と検証を積み重ねることで、教育・保育の向上を図っている。1歳から5歳までの発達の連続性を踏まえた上で、砂遊び、水遊び、かけっこなどの主な遊びを取り上げ、設定したねらいに基づき環境や援助のポイントを設定し、子どもの姿や指導内容に対する考察・振り返りを行っている。こうした実践と検証を通して、各学年（各年齢）の成長をより確かなものにし、着実につながるように取り組んでいる。		

7	カテゴリー7		
	情報の保護・共有		
	サブカテゴリー1（7-1）		
	情報の保護・共有に取り組んでいる		
	評価項目1		
	こども園が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる		評点（〇〇〇）
	評価	標準項目	
	あり	情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定している	
	あり	収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・保管している	
	あり	保管している情報の状況を把握し、使いやすいように更新している	
	評価項目2		
	個人情報は、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している		評点（〇〇〇〇）
	評価	標準項目	
	あり	園で扱っている個人情報の利用目的を明示している	
	あり	個人情報の保護に関する規程を明示している	
	あり	開示請求に対する対応方法を明示している	
	あり	個人情報の保護について職員（実習生やボランティアを含む）が理解し行動できるための取り組みを行っている	
	カテゴリー7の講評		
情報の適切な管理を行っている			
教育・保育の必要上収集した個人情報は、カギのかかるロッカーの使用、パソコンへのアクセス権限の設定などにより、必要な場合に限った閲覧としている。また、服務事故防止を意識化するために、服務に関する実態、具体的な方策、行動計画などを含む計画を定めている。USBメモリの取り扱いや個人ファイルの保管、イニシャルの使用など、月初めの朝会や月2回の職員会議などの場を通じて周知を図っている。			

8	カテゴリー8	
	カテゴリー1～7に関する活動成果	
	サブカテゴリー1 (8-1)	
	前年度と比べ、こども園の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している	
	評価項目1	
	前年度（比較が困難な場合は可能な期間で）と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている ・カテゴリー1：「リーダーシップと意思決定」 ・カテゴリー2：「経営における社会的責任」 ・カテゴリー4：「安全管理」	改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として表れている
	改善の成果	
	PDCAのサイクルに基づく運営が定着している	
	一年間の教育・保育の全体計画である教育課程を作成し、取り組みの根底をなす教育目標、重点目標を明らかにしている。その上で、経営計画に基づく取り組みについて自己評価を行うことで、園運営および職員育成の両面において、目標管理的な進行を図っている。計画（Plan）→実行（Do）→評価（Check）→改善（Act）のサイクルに則って計画的な運営および教育・保育の実践を行っている。	
	サブカテゴリー2 (8-2)	
	前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している	
	評価項目1	
	前年度（比較が困難な場合は可能な期間で）と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている ・カテゴリー5：「職員と組織の能力向上」	改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として表れている
	改善の成果	
	多様な研修を計画的に行うことで、着実な育成を図っている	
	多様な研修を計画的に行うことで、着実な育成を図っている。「こども園の一日の流れと保育の人的環境としての保育教諭」といったものから、「乳児と幼児の発達の理解」「特別支援教育・支援員との連携・学校経営」「個人記録のポイント」「保護者への教育内容の説明」「表現あそびの実践研修」など、こども園の職員として踏まえるべき基本的な内容から、実践に活かすことを前提とする具体的なテーマに基づくものまで用意し、一人ひとり、および、組織全体としての力の向上を図っている。	
	サブカテゴリー3 (8-3)	
	前年度と比べ、教育・保育の実施のプロセスの面において向上している	
	評価項目1	
	前年度（比較が困難な場合は可能な期間で）と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている ・カテゴリー6：「教育・保育の実施のプロセス」	改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として表れている
	改善の成果	
	園内研究を通して教育・保育の向上を図っている	
	全学年共通のテーマを設定し、実践と検証を積み重ねることで、教育・保育の向上を図っている。今年度は、1歳から5歳までの遊びの充実に向けて、年齢・発達に応じた環境や援助のあり方を探るべく取り組んでいる。各学年（各年齢）の成長をより確かなものにし、着実につながるように、ねらいに基づき環境や援助のポイントを設定し、振り返りを行い、考察を深めている。	
	サブカテゴリー4 (8-4)	
	前年度と比べ、保護者の満足や意向の把握等の面で向上している	
	評価項目1	
	前年度（比較が困難な場合は可能な期間で）と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分において改善傾向を示している ・カテゴリー3：「保護者の意向や地域・事業環境などの把握と活用」	改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として表れている
	改善の成果	
	意向を踏まえた対応の向上を図っている	
	保護者を対象に年2回アンケート調査を行い、運営や教育・保育について意向を収集している。また、面談や懇談の機会を通して、直接、意見や要望を把握している。こうして得られた声をもとに、必要な対応を検討し、取り組みの見直しや強化につなげている。	

	教育・保育の実施のプロセス（カテゴリー6）		
6	カテゴリー6		
	教育・保育の実施のプロセス項目		
No.	評価項目		
1	サブカテゴリー1		
事業に関する情報の提供			
評価項目1			
保護者等に対して教育・保育、その他の事業内容の情報を提供している		評点（〇〇〇）	
評価	標準項目		
あり	保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている		
あり	園の情報を、行政や関係機関等に提供している		
あり	保護者の問合せや見学があった場合には、個別の状況に応じて対応している		
サブカテゴリー1の講評			
ホームページや掲示板を活用して、園の情報を提供している			
園の情報はホームページや園外に設置した掲示板などを通して、提供している。ホームページでは、トップ画面の中央に、教育目標である「げんき、ゆうき、だいすき」と、子どもも理解できる三つの単語で明確に示している。掲示板では、園の行事のほか、子育て支援事業の「すくすくふれあいひろば」「なかよし会」「すくすくタイム」など、非在園児保護者も利用可能な事業について案内している。			
見学者には園要覧を配布し、見学と合わせ、園の雰囲気を伝えている			
見学の希望については、希望者の希望を踏まえて、随時対応している。見学者には園要覧を手渡し、子どもの様子や施設を見学するとともに、教育・保育内容や大切にしている事柄などについて説明している。園要覧は写真を多用したカラー版であり、一日の生活の流れ、年間行事予定、こども園の歌など掲載し、イメージしやすい内容となっている。			

2	サブカテゴリー2		
利用開始・終了時の対応			
評価項目1			
利用の開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点（〇〇〇）	
評価	標準項目		
あり	利用の開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		
あり	教育・保育内容について、保護者の同意を得るようにしている		
あり	教育・保育に関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		
評価項目2			
利用の開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援している		評点（〇〇〇〇）	
評価	標準項目		
あり	利用開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		
あり	利用開始直後には、子どもの不安やストレスを軽減するよう配慮している		
あり	利用前の生活をふまえた支援をしている		
あり	利用終了時（就学を除く）には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援をしている		
サブカテゴリー2の講評			
入園に際し、重要事項等の発信、健康や個別の状況の把握などを行っている			
新しく入園が決まった家庭には、一日入園・新入園時保護者会を開催し、事前のオリエンテーションを行っている。また、年度当初には、短時間保育枠と長時間保育枠と別々に入園時保護者会を開催し、こども園での生活に関わる基本事項やルールなどの重要事項を説明している。個々の子どもの教育・保育に必要な情報については、家庭状況、健康記録、入園までの生活状況などの書類により、食事、睡眠、清潔、排泄、着脱、ことば、遊び、親の関わり方、保育歴、愛称などの点を中心に把握している。			
新入園、退園とも継続的な支援となるよう配慮している			
新入園の子どもについては、家庭で親しんできた遊具を揃えるなど、家庭的な雰囲気作りを行うなど、新たな環境にスムーズに適応できるよう配慮している。また、5月から始まる給食に向けて、保護者と相談しながら利用時間を少しずつ延ばし、通常の利用時間になじんでいけるようにしている。退園する子どもについては、必要に応じて、関係機関への児童票の引き継ぎなどを行っている。			

3	サブカテゴリー3	
計画の策定と着実な実行		
評価項目1		
こども園としての教育課程は、理念・基本方針の基づき策定されている		評点（〇〇〇〇）
評価	標準項目	
あり	教育課程の策定にあたっては、全職員がかかわっている	
あり	教育・保育の基本方針や地域の実態を踏まえて策定している	
あり	就労状況など保護者の実情を考慮して策定している	
あり	教育課程は入園時や年度当初、改定時に保護者に説明している	
評価項目2		
子どもの発達や状況に応じた指導計画を作成している		評点（〇〇〇〇）
評価	標準項目	
あり	年齢ごとに指導計画を作成している	
あり	子どもの発達や状況に応じて指導計画の作成・評価・見直しを行っている	
あり	評価・改訂にあたっては、複数の職員が参画している	
あり	評価・改訂にあたっては、保護者の意向も反映している	
サブカテゴリー3の講評		
教育目標を明確にし、教育課程につないでいる		
園の教育課程において教育目標を定め、区の教育ビジョンを踏まえて、指導の重点5項目を明示している。①生活、②人とのかかわり、③学び、④地域との連携、⑤その他となっている。教育目標は「げんき！ ゆうき！ だいすき！」とし、ホームページや園内の掲示でも常に触れるようにしている。子ども同士でも目標を口にする姿が見られるなど、子ども、保護者、職員とで共有できる内容となっている。		
園の計画に関しては、自己評価して検証している		
教育課程・指導計画の策定や評価・反省にあたっては、全員参加の会議で話し合うことを原則としている。保護者の意向等は年2回のアンケートで収集し、必要に応じて反映している。評価については「経営計画案自己評価」において、領域、中間教育目標、短期教育目標、具体的方策の各項目で検証し、4段階で評価を実施している。		

4	サブカテゴリー4	
個別状況に応じた計画策定・記録		
評価項目1		
定められた手順に従ってアセスメントを行い、子どもの課題を個別の援助場面ごとに明示している		評点（〇〇〇）
評価	標準項目	
あり	子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	
あり	子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	
あり	アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	
評価項目2		
子どもの様子や保護者の希望、関係者の意見を取り入れた指導計画を作成している		評点（〇〇〇〇〇）
評価	標準項目	
あり	計画は、保育課程を踏まえて、養護（生命の保持・情緒の安定）と教育（健康・人間関係・環境・言葉・表現）の各領域を考慮して作成している	
あり	計画は、子どもの様子や保護者の希望を尊重して作成、見直しをしている	
あり	計画を保護者にわかりやすく説明している	
あり	計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている	
あり	計画を緊急に変更する場合のしくみを整備している	
評価項目3		
子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している		評点（〇〇）
評価	標準項目	
あり	子ども一人ひとりに関する情報を過不足なく記載する仕組みがある	
あり	計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	
評価項目4		
子どもの状況等に関する情報を職員間で共有している		評点（〇〇）
評価	標準項目	
あり	計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している	
あり	子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	
サブカテゴリー4の講評		
教育課程を踏まえて指導計画を立案している		
児童票、保健調査表、わたしのからだ等の書類により、子どもの心身状況について把握している。その上で、教育課程を踏まえて、養護、教育、食育、家庭・地域との連携などの要素からなる指導計画を立案している。乳児は月案、幼児は期案を作成し、クラス打ち合わせにおける評価・反省を経て、次の計画案につなげている。		
各専門職が会議等で子どもの状況を共有している		
各クラスは幼稚園教諭と保育士の2人担任制で、そのほかに非常勤の支援員、保育士、講師など、数多くの職員が子どもと接している。引き継ぎ事項は朝の打ち合わせ記録ノートに記載し、週案会、各学年の打ち合わせでも共有している。保育日誌は、担任が専門的な視点を大切に別々に記録している学年もあり、その上で、園長がコメントを書き加えて指導している。		

5	サブカテゴリー-5	
教育・保育の実施項目		
評価項目1		
子どもの発達を促すための保育を行っている		評点（〇〇〇〇〇〇）
評価	標準項目	
あり	子ども一人ひとりの発達の過程や生活環境などにより子どもの全体的な姿を把握している	
あり	子どもの自主性、自発性を尊重し、遊び込める時間の配慮をしている	
あり	多様な表現活動や園外活動を計画している	
あり	文化や習慣の違いなどを認め、互いを尊重する心を育てる工夫をしている	
あり	障害のある子どもの保育にあたっては、一人ひとりの障害の種類、特性に応じた保育ができるように配慮している	
あり	異年齢保育を効果的に取り入れている	
サブカテゴリー-5-1の講評		
子どもの成長・発達を捉え、必要な支援を提供している		
クラス毎や乳児・幼児毎の会議を大切に捉えて、他職種も交えた会議を定期的開催し、全職員が各クラスの様子を共有している。子どもは自分の好きな遊びに一生懸命取り組んでいる様子がうかがわれ、職員との信頼関係がしっかりと培われているように見受けられた。保育室は年齢毎に子どもの興味心を引き出すような玩具を準備し、子どもが管理しやすいように配慮されており、職員の余計な声かけはなく、子どもの声が飛び交っていた。一緒に生活する楽しさや難しさを体験しながら、人と関わる力が育っている。		
相互の育ち合いにつながる積極的な異年齢交流を行っている		
毎週土曜日は1～5歳児までの異年齢クラスでの保育を実施している。異年齢児との関わりの中から、様々な遊びを一緒に楽しむことを目標にしている。日常的には1、2歳児クラスでは年月齢を考慮した遊びを提供する中で自然な関わりが見られ、幼児クラスでは3歳児室では5歳児と一緒に歌や踊りを楽しんでいる様子を、調査時に確認することが出来た。おまつりごっこでは、5歳児が中心に企画してお神輿や山車、お店などを実施して、全園児を招待している。5歳児は、園の中で最年長になった自覚とやり甲斐を感じながら取り組んでいる。		
評価項目2		
幼稚園と保育園の機能が一体的に提供されている		評点（〇〇〇〇）
評価	標準項目	
あり	短時間保育枠で入園した子どもと長時間保育枠で入園した子ども同士が、区別なく教育・保育を受ける工夫がされている	
あり	登園時間、降園時間の違いなどにかかわらず、集団としての教育・保育を実施している	
あり	短時間保育利用の保護者と長時間保育利用の保護者の交流に努めている	
あり	保護者の就労の有無や形態にかかわらず、それぞれの機能が必要に応じて提供されている	
サブカテゴリー-5-2の講評		
保育時間の違いで区別することなく教育・保育を提供している		
長時間保育枠の子どもは開園時間以降順次登園し、9時からは短時間保育枠の子どもも登園し、クラス全員が一緒に活動している。子どもの心や体が一番活発な時間であるこの時間には、子どもの発達を考えた指導計画に基づき、意図的・計画的に季節や年齢・クラスの状況に合わせた遊びを通して、活動に取り組んでいる。幼稚園教諭と保育士が連携して共にクラスを担当している。		
園の取り組みを支え、自ら楽しもうとする保護者の存在がある		
年度当初に年間行事予定表を配布し、保護者参加のものにはマークをつけて参加を呼び掛けている。保護者会やクラス懇談会は保護者の都合に合わせて出席できるよう、クラス毎に時間差で2回ずつ実施している。運動会や親子遠足、子ども会は、どの家庭も比較的参加しやすい土曜日に実施し、保護者同士の交流を図っている。存在、夏まつりやバザー、もちつき会、成人教育学級などでは、PTAと協力しながら実施している。		

評価項目3		
適切な教育環境を整えている		評点 (〇〇〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
あり	全身を使って活動することができる環境を整えている	
あり	人と関わる力が育つよう配慮している	
あり	さまざまな活動や体験をするのに適切な環境を整えている	
あり	身近な自然や社会とのかかわることができるよう配慮している	
あり	伝え合う喜びを味わったり、言葉に対する感覚が養われたりするよう配慮している	
あり	生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れられるような環境を工夫している	
あり	さまざまな表現を楽しみ、表現する意欲を十分発揮させることができるような環境を整えている	
あり	日常の保育の中で、文字・言葉や数量・図形などが、遊びとして無理なく自然にとりいれている	
サブカテゴリー5-3の講評		
自然豊かな環境を活かした保育実践、人との関わりの中での育ちがある		
近隣には、散歩に出かけられる場所が6～7か所あり、季節や活動内容により行き先を選んでいる。時には、子どもの意見を活かして行き先を決めることもある。出かける時には、場所や出席人数、引率者、出発・到着時間など記録して、出発時や到着時などのほか、出先でも細めな確認をして安全を図っている。自然の移り変わりを感知ながら、地域の方々との行く先々での関わりを経験している。地域の方が園行事に参加したり、5歳児が高齢者の集いに参加するなど、多様な方々との関わりの中での子どもの育ちがある。		
生活や遊びの中で文字や言葉、数や形を自然に身につけている		
園では、日常生活の中で自然に文字や数、図形などに触れる体験を積み重ねている。絵や地図を眺めたり、実際に絵本作りの体験、ごっこ遊び、物の配布、椅子を5脚ずつ重ねる、積み木の構成や片付けなど、様々な活動が繰り返されることで身につけていく。学期ごとに行われる「あいさつ週間」では、職員が交代で園門に立ち挨拶を交わしている。朝の気持ちよい挨拶は一日の始まりを楽しくする。いつの間にか子どもも一緒に立ち、登園してくる親子や近所の方へ「おはようございます」と声をかけている。		

評価項目4		
栄養バランスを考慮したうえで、おいしい食事を出している		評点（〇〇〇〇〇）
評価	標準項目	
あり	メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	
あり	子どもの状態にあった椅子・テーブル等を用意している	
あり	食物アレルギーや文化・習慣の違いなど、個別に配慮した食事を提供している	
あり	快適に食事ができるように環境面でも配慮している	
あり	適温給食を心がけているか	
非該当	【〇歳児を受け入れている保育所のみ】 乳児の授乳や食事に関しては、乳児一人ひとりの状況やリズムに合わせて行っている	
サブカテゴリー5-4の講評		
サイクルメニューを活かした給食で子どもの体作りを実践している		
栄養士が作成する献立に沿った給食を提供している。献立はサイクルメニューとなっており、栄養士は子どもの喫食状況について実際に観察したり職員から情報を得たりしながら、提供した食事の味付けや食材の形態などを確認し、子どもがしっかりと必要な栄養量を摂取できるよう取り組んでいる。玄関には、その日の給食と食材の産地や放射能検査結果を提示し、保護者の安心感を得ている。栄養士が作成する「食育だより」「PAKUPAKU便り」では、食育体験の記録や「朝ごはんを食べて登園しよう」等のメッセージを保護者に伝えている。		
子ども一人ひとりの状況に応じた安心・安全につながる給食を提供している		
日本古来の行事も「食」からアプローチ、七夕は天の川をイメージしたそうめん、節分は大豆が隠れているおにぎりやイワシに見立てた煮干しなど、子どもにも大人気となっている。アレルギーや食習慣の違いに配慮、「食」についても子ども一人ひとりに対応している。アレルギーがある場合は医師の指示により除去食を提供している。毎月の献立内容は保護者と確認して喫食時は個別のトレーを使用し、名前を書き、誤配を防いでいる。職員全員が「みんなで防ごう、誤食事故」を掲げ、職員配置の配慮や食事スペースの掃除の徹底を実践している。		
評価項目5		
子どもが心身の健康を回復・維持するための支援を行っている		評点（〇〇〇〇）
評価	標準項目	
あり	子どもの健康状態を定期的に記録し、把握している	
あり	乳幼児突然死症候群（SIDS）、感染症等を予防する仕組みがある	
あり	医療的なケアが必要な子どもに対し、支援できる体制を確保している	
あり	保護者に対して感染症や乳幼児突然死症候群（SIDS）等に関する情報を提供し、予防に努めている	
サブカテゴリー5-5の講評		
子どもが健康的な生活が約束される取り組みがある		
朝の受け入れ時の観察や保護者との対話、連絡帳などを通して子どもの健康状態を把握し、職員間で共有している。また、園では子どもが健康的に過ごすことができるよう定期的に健康状態を把握している。身体測定は全園児に毎月実施し、他園医との連携により、1・2歳児は内科、歯科、ぎょう虫卵検査を、3・4・5歳児は内科、歯科、ぎょう虫卵検査、尿検査、永久歯指導（5歳児）など実施している。それらの結果は保護者に伝え、内容を園と共有している。		
感染症対策や保健に関する情報の発信を行っている		
園内で感染症が発生した際には、発生状況や症状・特徴など、疾病ごとの情報を掲示し、保護者に注意喚起して蔓延防止に努めている。合わせて、予防接種の必要性や積極的な接種のお願いなど、クラス毎に発信している。SIDSの予防については、その必要性を伝えるとともに、1、2歳児は20分毎、3～5歳児は30分毎にプレスチェックを実施し、室温・湿度、顔色、咳、鼻水、尿・便などの確認を行っている。行政が発行するポスターや保健に関する情報等も園内に掲示して、保護者への啓発を行っている。		

評価項目6		
園内の生活が、子どもにとって楽しく快適なものになる工夫を行っている		評点（〇〇〇）
評価	標準項目	
あり	子どもが園の生活を楽しめる工夫をしている（誕生会、季節の行事など）	
あり	園内は快適で落ち着ける環境・空間にしている（清潔さ、採光、換気、照明等）	
あり	お昼寝は子どもの状況に合わせる工夫をしている	
サブカテゴリー5-6の講評		
子どもの持つ力を信じ、子どもが活きる活動を行っている		
子どもの「自分らしさ」と、楽しい遊びを通して体験を広げていくことを大切にしている。全職員が、乳・幼児期の子どもが、遊びを通して楽しさを十分に体験できる環境はどのようなものかについて考え、子どもが自分の力で試し、学び、伸ばせるか工夫し、環境作りに努めている。毎月行われる4、5歳の誕生会では、5歳児の子どもが職員と一緒に準備を進め、当日は司会を担当している。友だちの笑顔を見るために取り組むこの活動は、緊張感を感じながらも自分の気持ちを言葉で表現したり、役割を全うする、貴重な体験となっている。		
子どもの成長・発達を踏まえて環境を設定している		
乳児クラスではままごとやブロック、絵本などのコーナーを設定し、子どもの手の届くところに玩具を置き、自分で選べるようにしている。また、生活の区切りで子どもが戸惑わないような居場所を確保し、落ち着いて過ごすことができるようにしている。幼児クラスでは年齢に応じて集団で簡単なルールのある遊びや構成遊びができ、遊びの中で手先指先の発達を促し、基本的な生活習慣の自立にもつなげている。文字や数字、人の気持ちや自分の想いの表し方、友だちとの関わりの楽しさなどを、様々な体験を通して実感できる学びを大切にしている。		
評価項目7		
施設と家庭との交流・連携を緊密に行っている		評点（〇〇〇〇〇）
評価	標準項目	
あり	保護者などが常時参観できる仕組みがある	
あり	便り、クラス別保護者会などを活用し、子どもの園での生活ぶりを家庭に紹介している	
あり	保護者の事情に応じて、柔軟な対応をしている	
あり	幼稚園利用の保護者、保育園利用の保護者がともに施設の行事などに参加しやすい工夫を行っている	
あり	保護者からの相談に応じる体制を整えている	
サブカテゴリー5-7の講評		
年度当初に行事予定表を配布し、参観日の予定を知らせている		
参観は随時受け付けつつ、年3回参観ウィークとして、週のうち3日間3タイプの時間設定をして、可能な曜日・時間に参加してもらっている。その日は、懇談会も合わせて実施している。また、年3回のうち1回は土曜日に行い、親子で遊ぶ日として年度当初に行事予定表を配布し、就労している保護者が参加しやすい配慮をしている。祖父母の参観日も別途設けている。		
園での生活の様子は連絡帳や写真掲示で伝えている		
乳児については連絡帳で睡眠、排便、食事、授乳などの項目について園と家庭と双方で記入し、子どもの生活状況を共有している。園での生活については、毎日写真を掲示して、保護者が把握できるようにしている。今後は、保護者会で、子どもの様子を映像で知らせることを検討している。なお、勤務時間の関係上、長時間保育卒の保護者には担任が直接会えないことが多いため、組織内での引継ぎを徹底している。怪我やトラブルと言ったことばかりではなく、頑張った姿や楽しんだことなど、子どもの全体的な姿を捉えて保護者に伝えていこうと取り組んでいる。		

評価項目8		
虐待防止の取り組みや育児困難家庭への支援を行っている		評点（〇〇〇〇）
評価	標準項目	
あり	虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	
あり	職員が、虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや虐待の事実を把握をした際には、組織としての速やかな対応を決定する体制を整えている	
あり	虐待を受けている疑いのある子どもと保護者の情報は、児童相談所、子ども家庭支援センターなど関係機関に照会、通告を行い、その後も連携できるような体制を整えている	
あり	子どもの発達や育児などについて、懇談会や勉強会を開催し、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	
サブカテゴリ5-8の講評		
虐待防止マニュアルを定め、組織的に対応することを決めている		
虐待防止マニュアルを作成し、児童虐待の発生予防と早期発見に努めている。「しおり」にも区の要保護児童支援ネットワークについて記載し、虐待を受けている疑いのある子どもについては、子ども家庭支援センターと連携して解決にあたることなどを決めている。		
職員や保護者と虐待防止の意識を共有化している		
虐待や育児困難家庭の問題については、研修で学んだ内容を職員同士で伝え合ったり、職員会議で確認の方法や通報の義務について再確認したりしている。保護者に対しても、保護者会や学級懇談会、園長懇談、個人面談などを通じて、虐待防止や困難を抱えている家庭への支援を行っている。		

評価項目9		
地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点（〇〇〇〇〇〇）
評価	標準項目	
あり	保護者が要望する地域の情報を利用しやすいかたちで提供している	
あり	園の活動や行事に地域の人の参加を呼びかける、地域の行事や活動に参加できるよう配慮する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	
あり	地域の文化・レクリエーション施設等を利用している	
あり	他の園や福祉施設等との交流を図っている	
あり	地域の町会やボランティア団体、高齢者クラブ等の活動に子どもが参加できないか相談するなど、積極的な交流に向けて取り組んでいる	
あり	地域の人たちと接する機会（散歩・買い物等）に積極的に交流を図っている	
サブカテゴリ5-9の講評		
地域に見守られる中で温かい関わりがある		
地域や近隣公園等で行われる活動や地域の行事についての情報は配布物で、あわせて子ども家庭支援センターの活動予定表に掲載して知らせている。年間行事には地域の町会や青少年委員、民生委員、敬老会の方々が参加してくださっている。入園式や運動会、子ども会、バザー、修了式などに参加し、その都度子どもの成長を保護者や職員と確認し喜んでいただいている。修了式では5歳児の子どもからお世話になった地域の方々に向けてお礼のことばを伝えている。		
地域の中での育ちと人との関わりがある		
乳児クラスは天気が良ければ園外に出ることが多く、地域の方々とのふれあいも日常的に行われている。地域町会のお祭りや盆踊りへの参加、近隣中学校の職場体験の受け入れも実施、また地域の行事「江戸流し雛」に参加、5歳児の希望者は屋形船に乗り船上から、他年齢の希望者は岸からそれぞれ保護者と一緒に願い事を書いた流し雛を流す体験をしている。「いきいき若返りまつり」にも5歳児が参加、歌の発表をしたり出し物の見学、また高齢者と手遊びなどで交流している。子どもの元気な姿を見ていただき喜んでいただいている。		

評価項目10		
地域のニーズに対応した子育て支援事業を行っている		評点（〇〇〇〇〇）
評価	標準項目	
あり	未就園児が親子で登園する日を設けている	
あり	在園児のほか地域の保護者からの教育・保育に関する相談を受け入れている	
あり	保護者のニーズに対応した預かり保育を実施している	
あり	一時保育事業を実施している	
あり	その他、多様な子育て支援事業を実施している	
サブカテゴリー5-10の講評		
園の機能や専門性を活かして子育て支援を展開している		
地域の子育て家庭に対する支援事業を計画的に実施している。地域の未就学児・保護者を対象とした教育・保育体験や園庭開放など、実施予定について、ホームページや掲示板などを通じて発信している。各事業を行う際には、合わせて、身体測定を実施したり、子育て相談に対応したりしている。こうした取り組みを通して、子育ての悩みや不安の解消、参加者間の関係の構築などに功を奏している。		
評価項目11		
小学校との連携		評点（〇〇〇〇）
評価	標準項目	
あり	小学校の教育内容について理解するための取り組みを行っている	
あり	卒園した子どもの情報を得るように努めている	
あり	地域の小学校の行事への参加等、交流活動に取り組んでいる	
あり	認定こども園こども要録を適正に記入し、小学校に送っている	
サブカテゴリー5-11の講評		
不安なく就学できるように、小学校との情報交換を実施している		
毎年12月には5歳児保護者を対象とする「小学校へのかけはし懇談会」を実施している。教育支援館の先生が来園し、子どもが入学前に身につけておきたい事等について話をしている。また、保護者からの質問にも時間の許すかぎり答えてもらえ、保護者の安心につながっている。日程について、今年度は2回の日を2回に設定し、1回は夕方に、もう1回は午前中にと、保護者が参加するために調整しやすい時間帯を設定している。		
実体験を通して入学が楽しみになるように取り組んでいる		
地域の小学校との交流事業として、5歳児が1年生の授業に参加したり、一緒に給食を食べたりしている。入学を前に、実際に教室に入ってドキドキしながらも徐々に慣れてきて、帰り際に「待ってるよ」という先生からの言葉かけに安心した様子をうかがわせ、入学を楽しみにしながら帰園してくる。給食ものんびりとは食べていられないことを実感し、園での給食の時にはそれまで以上に時計を意識しながら食べようとする子ども自らの行動が見られている。子どもに関する情報は要録に記載し、学校の先生との情報交換の時間を取っている。		

6	サブカテゴリー6	
プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
評価項目1		
子どものプライバシー保護を徹底している		評点（〇〇）
評価	標準項目	
あり	子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	
あり	子どもの羞恥心に配慮した支援をしている	
評価項目2		
教育・保育の実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点（〇〇〇）
評価	標準項目	
あり	日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	
あり	子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に対策を検討し、対応している	
あり	子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている	
評価項目3		
障害児を受け入れるにあたり、保育内容の配慮を行っている		評点（〇〇〇）
評価	標準項目	
あり	医療機関や専門機関と連携して、相談・指導・助言を得る体制がある	
あり	障害児保育について全職員で学習し、話し合える体制ができている	
あり	障害児と障害のない子どもとの関わりに配慮している	
	サブカテゴリー6の講評	
子ども本位の立場で、子どもの気持ちを受け止めるよう努めている		
「人権尊重の精神」を掲げ、職員会議でも日常の言動を検証している。会議においても、「NO！ NOT！ の言い方はしないようにしよう」「言葉のかけ方を磨こう」といった点について全体で共有するなどしている。また、人との関わりを大切に、相手の状況がわかり楽しく活動して協力できる力を育てるため、自分の想いを表したり相手を受け入れたりする経験を積み重ねている。こうした子どもの自己肯定感を育む取り組みの前提として、大人自身の肯定的な意識、肯定的な言動を心掛け、実践している。		
支援員を配置して、障害児保育を実践している		
特別支援教育の視点に立ち、関係機関と連携して個々の教育ニーズに応えとし、支援員を配置して障害児保育を実践している。また、障害児を学級の仲間として位置づけ、無理強いや拒否はせずに受け入れることを大切にしている。日常の関わりは他の子どもと同じように接し、個々に応じた対応を図っている。		

7	サブカテゴリー7	
こども園業務の標準化		
評価項目1		
手引書等を整備し、こども園業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点（〇〇〇）
評価	標準項目	
あり	手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、園が実施している教育・保育の基本事項や手順等を明確にしている	
あり	実施している教育・保育が定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを点検している	
あり	職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	
評価項目2		
教育・保育の向上をめざして、こども園の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点（〇〇〇）
評価	標準項目	
あり	実施している教育・保育の基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	
あり	実施している教育・保育の基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案を反映するようにしている	
あり	職員一人ひとりが工夫・改善した教育・保育の事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる	
評価項目3		
さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している		評点（〇〇〇〇〇）
評価	標準項目	
あり	打合せや会議等の機会を通じて、教育・保育の基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている	
あり	職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している	
あり	職員全員が、子どもの安全性に配慮した支援ができるようにしている	
あり	職員一人ひとりの教育・保育の実施方法について、指導者が助言・指導している	
あり	職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている	
サブカテゴリー7の講評		
職員や保護者の意見を取り入れるしくみがある		
教育・保育の基本事項や手順等は、共通のハンドブックに明示し、各職員が活用している。職員会議に提案する前に確認を行い、提案事項を实践したあとは反省・評価を行い、業務を点検するサイクルができています。保護者からは年2回アンケートにより、要望や改善点を収集している。寄せられた意見は集計して公表し、取り入れている提案もある。		
子どもの安全について指導や確認を実施している		
日々安全を点検しており、月ごとに「安全点検表」に基づき、環境チェックを実施している。保育室、水道、廊下、テラス、靴箱などを点検して○△×で評価し、△や×の箇所については「改善・修理進捗状況」に理由を記し、改善経過を記録している。また、「ヒヤリハット及びけが報告書」を作成して、事故防止や再発防止を図っている。		

利用者調査

調査対象	130世帯を対象に実施し、81世帯から有効回答を得た。		
調査方法	園を通じて保護者へ手渡し、回収は、園に設置した回収箱への投函、および、保護者から評価機関に対する直接の郵送を併用した。		
調査対象者数	130		
有効回答者数	81		
調査対象者数に対する回答者割合（％）	62％		

利用者調査総評

1) 総合的な評価：「大変満足」が45%、「満足」が46%、合わせて91%という高い満足度が示された。
2) 各質問の特徴 ・最も満足度の高かった質問は、問1（献立表やサンプル表示で、毎日の食事の 内容がわかるようになっていきますか）および問26（担当の職員はお子さんの良い所や個性を認めていますか）で、回答者の99%が「はい」と回答した。 ・次いで、問37（いろいろな体験や遊びを通して、遊びへの意欲や主体的な態度が育っていますか）が98%、問18（園の行事は子どもにとって楽しいものであり、 子どもの成長に役立っていると思いますか）、問32（園運営の基本的な考え方（理念・方針）には納得していますか）および問36（問合せまたは見学の際、快く対応してくれましたか）では97%の回答者が、それぞれ肯定的な回答を寄せた。 ・最も「はい」の回答が占める割合が低かったのは問30（要望や不満があったとき、園以外の人などにも相談できることを知っていますか）で、32%の回答者が「はい」と回答した。

個別の回答数とその割合

評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1 献立表やサンプル表示で、毎日の食事の 内容がわかるようになっていきますか	80	1	0	0
	99%	1%	0%	
2 食事（給食）・おやつなどのメニューは、子どもの 状態に配慮された工夫がありますか	72	9	0	0
	89%	11%	0%	
3 アレルギーの対応について説明を受けましたか	47	13	7	14
	58%	16%	9%	

4	子どもの成長に大切な社会体験や自然体験などの体験ができるようにしていますか	71	9	1	0
		88%	11%	1%	
5	保護者の急な残業などであらかじめ取り決めた 利用時間を変更する必要がある場合、柔軟に対応 してくれますか	40	13	7	21
		49%	16%	9%	
6	保育中の発熱やケガなどの処置、保護者への 連絡などの体調変化への対応は十分ですか	61	13	5	2
		75%	16%	6%	
7	安全対策が十分取られていると思いますか	46	30	5	0
		57%	37%	6%	
8	保護者が参加しやすいように行事日程の配慮 は十分ですか	55	19	7	0
		68%	23%	9%	
9	お子さんの気持ちや様子・子育てなどについて 職員一人ひとりと話したり相談したりする事ができますか	56	17	8	0
		69%	21%	10%	
10	登園時に、お子さんの様子についての把握・確認がありますか	54	23	4	0
		67%	28%	5%	
11	園からのたよりやその他の方法で、教育・保育 内容や日々のお子さんの様子や気持ちを知ることが できますか	68	8	4	1
		84%	10%	5%	
12	保護者が大切に考えている事について、職員 は話を聞く姿勢がありますか	63	16	2	0
		78%	20%	2%	
13	お子さんの発達に合わせた豊かな感性を 育む活動・あそび等が行われていますか	72	9	0	0
		89%	11%	0%	
14	お子さんの発育や意欲を促すような遊具・ 玩具が十分に用意されていますか	65	12	3	1
		80%	15%	4%	

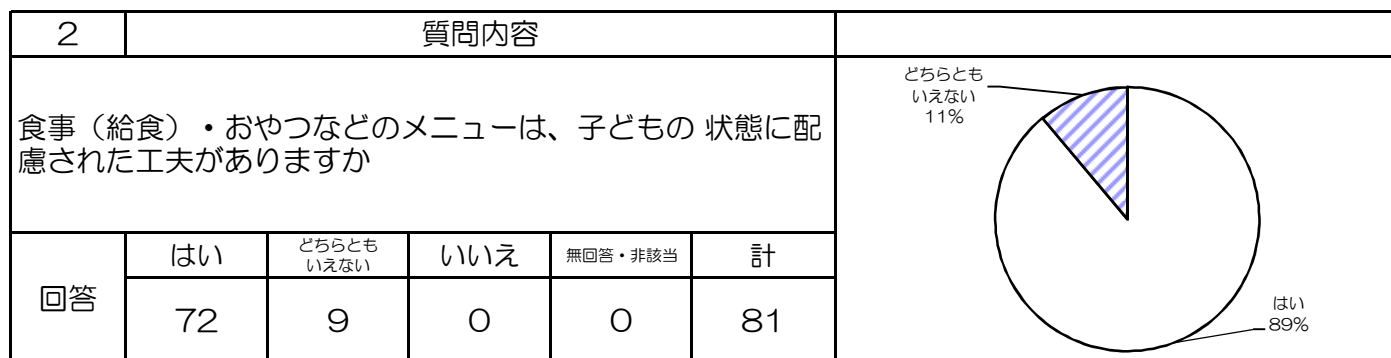
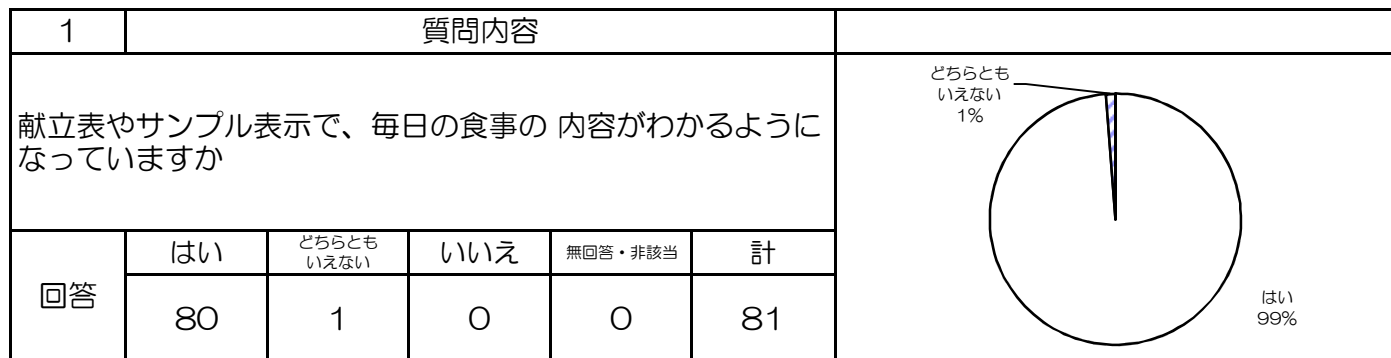
15	お子さんの発育や意欲を促すような図書・絵本があることを知っていますか	74	4	3	0
		91%	5%	4%	
16	集団生活を通し、社会性やルールを守る態度を育てようとしていますか	71	6	2	2
		88%	7%	2%	
17	あいさつや自分のことは自分ですするなど、基本的な生活習慣が身に付くように指導していますか	74	5	1	1
		91%	6%	1%	
18	園の行事は子どもにとって楽しいものであり、子どもの成長に役立っていると思いますか	78	2	0	0
		96%	2%	0%	
19	お子さんが生活するところは落ち着いて過ごせる雰囲気ですか	65	13	2	1
		80%	16%	2%	
20	保育参観や参加、保護者会は有意義なものとなっていますか	60	18	2	1
		74%	22%	2%	
21	施設内で感染症（インフルエンザ、風疹、とびひ、おたふく風邪等）が発生した際には、必要に応じてその状況について連絡がありましたか	57	17	3	4
		70%	21%	4%	
22	園は地域と協力して交通安全、地震・火災、防犯などについて安全を高める努力をしていますか	71	8	1	1
		88%	10%	1%	
23	行事等を通して、地域住民との交流を図っていると思いますか	56	19	5	1
		69%	23%	6%	
24	職員はあなたや子どもに関するプライバシー（秘密）を守っていますか	73	6	1	1
		90%	7%	1%	
25	お子さんは園で大切にされていると思いますか	75	5	0	1
		93%	6%	0%	

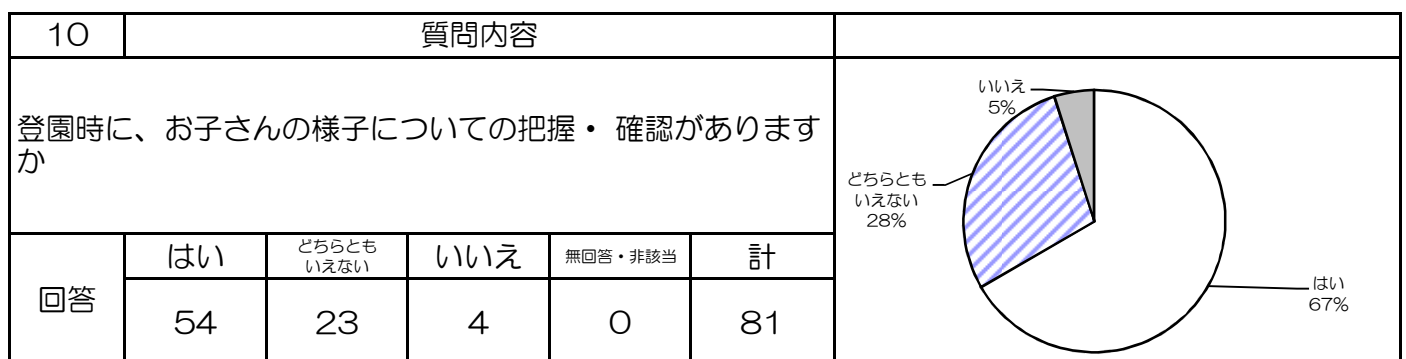
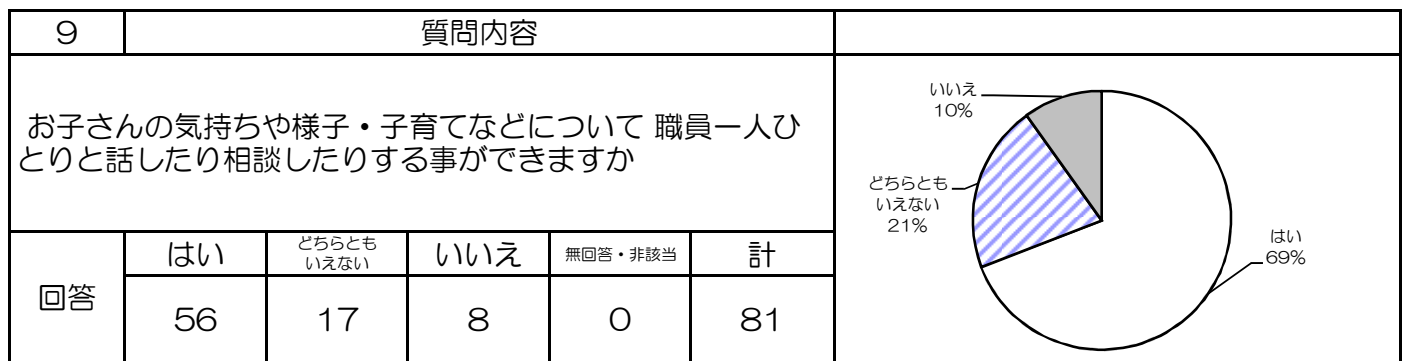
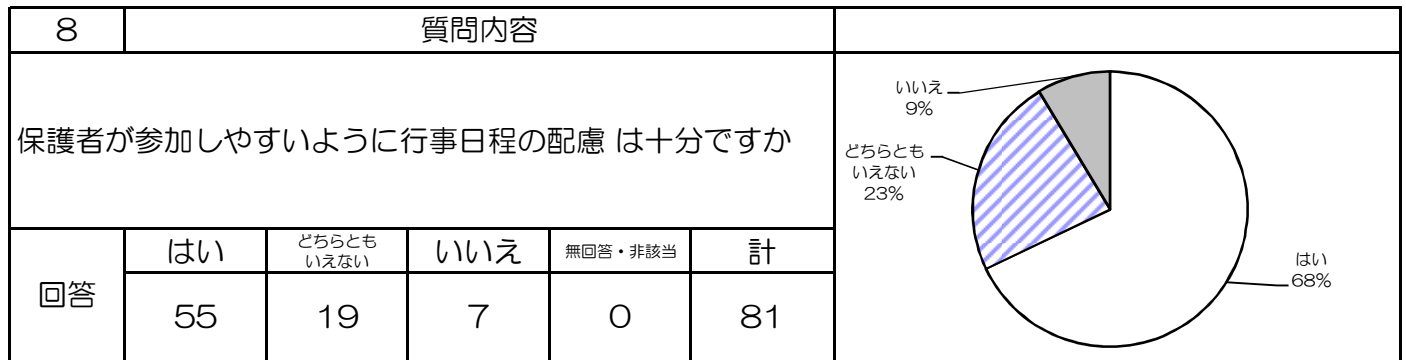
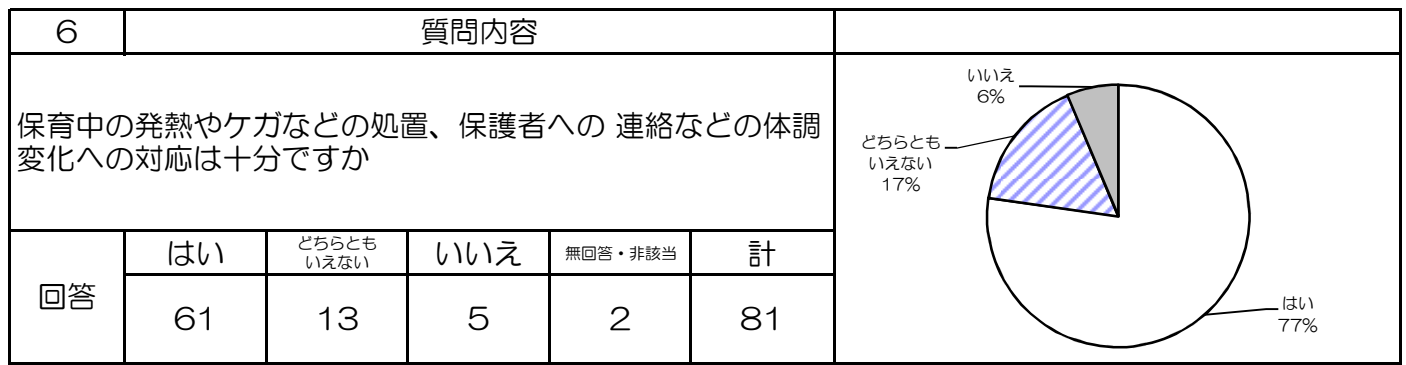
26 担当の職員はお子さんの良い所や個性を認めていますか	80	1	0	0
	99%	1%	0%	
27 園での苦情を相談できることを知っていますか	43	10	28	0
	53%	12%	35%	
28 要望や不満は、園に対して言いやすいですか	45	30	6	0
	56%	37%	7%	
29 園は、要望や不満などに、きちんと対応していますか	47	28	5	1
	58%	35%	6%	
30 要望や不満があったとき、園以外の人などにも相談できることを知っていますか	26	12	42	1
	32%	15%	52%	
31 園運営の基本的な考え方（理念・方針）を知っていますか	64	9	7	1
	79%	11%	9%	
32 【31.に「はい」と答えた方】 園運営の基本的な考え方（理念・方針）には納得していますか	64	2	0	15
	79%	2%	0%	
33 【31.に「はい」と答えた方】 日頃の教育・保育は、職員の行動等により園運営の基本的な考え方（理念・方針）と一致していますか	54	9	1	17
	67%	11%	1%	
34 入園に際し園から受けた説明は、わかりやすかったですか	70	7	1	3
	86%	9%	1%	
35 あなたは入園の前に施設を見学しましたか	70	0	10	1
	86%	0%	12%	
36 【35.の質問に「はい」と答えた方に】 問合せまたは見学の際、快く対応してくれましたか	64	2	0	15
	79%	2%	0%	

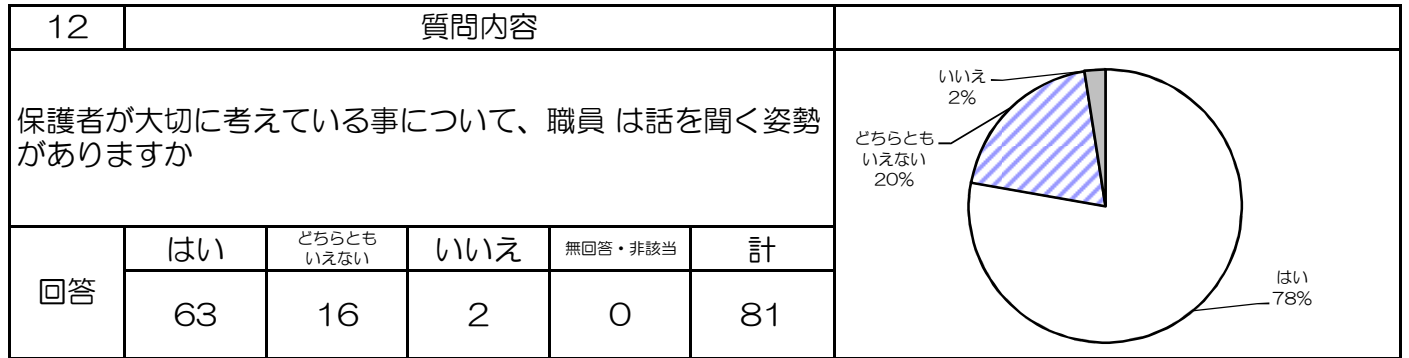
37	いろいろな体験や遊びを通して、遊びへの意欲や主体的な態度が育っていますか	79	2	0	0
		98%	2%	0%	
38	幼児は登園するのを楽しみにし、充実した園生活を過ごしていますか	72	7	0	2
		89%	9%	0%	
39	この施設は、幼児教育や預かり保育などの幼稚園機能、生活の場として特性を活かした教育やこまやかな養護を行う保育所機能、それぞれの長所が共に活かされた施設だと思いますか	55	19	5	2
		68%	23%	6%	
40	この施設のように幼稚園と保育園の機能を一体的に提供する認定こども園が増えるとよいと思いますか	59	19	2	1
		73%	23%	2%	

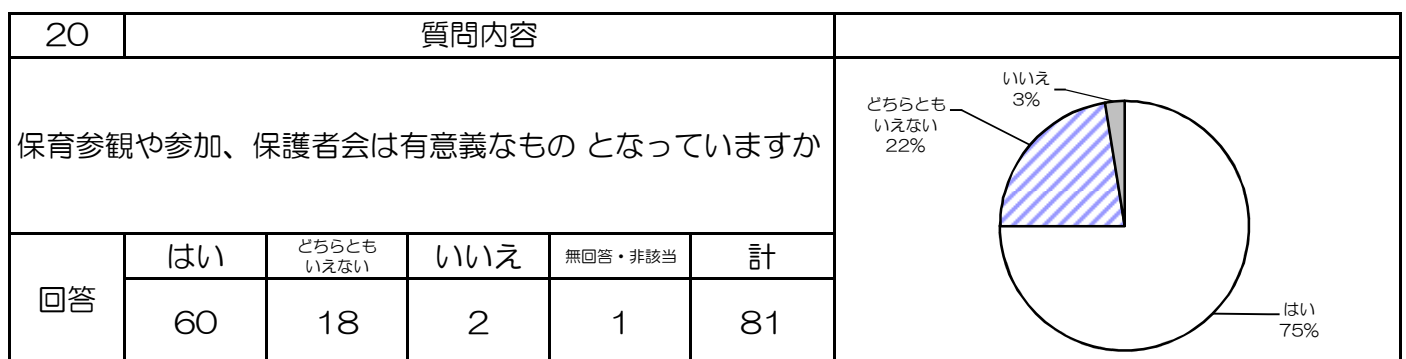
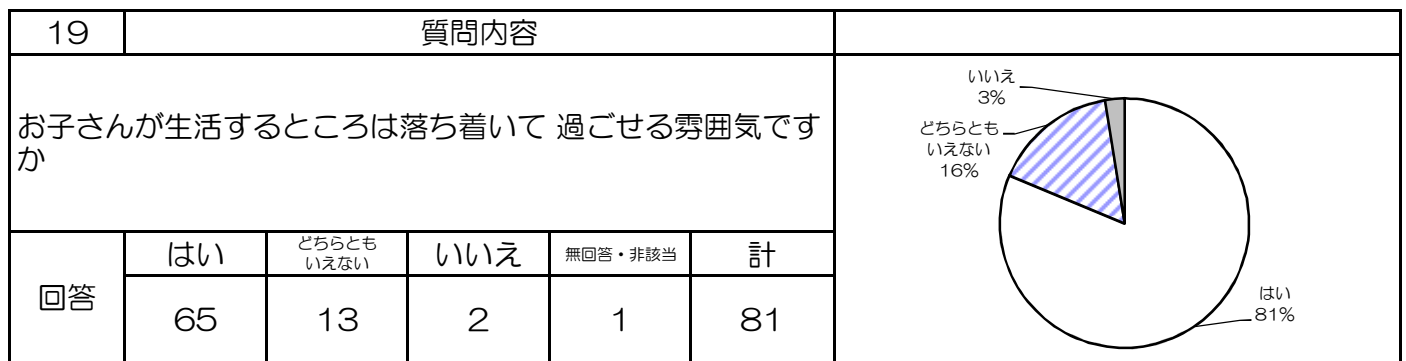
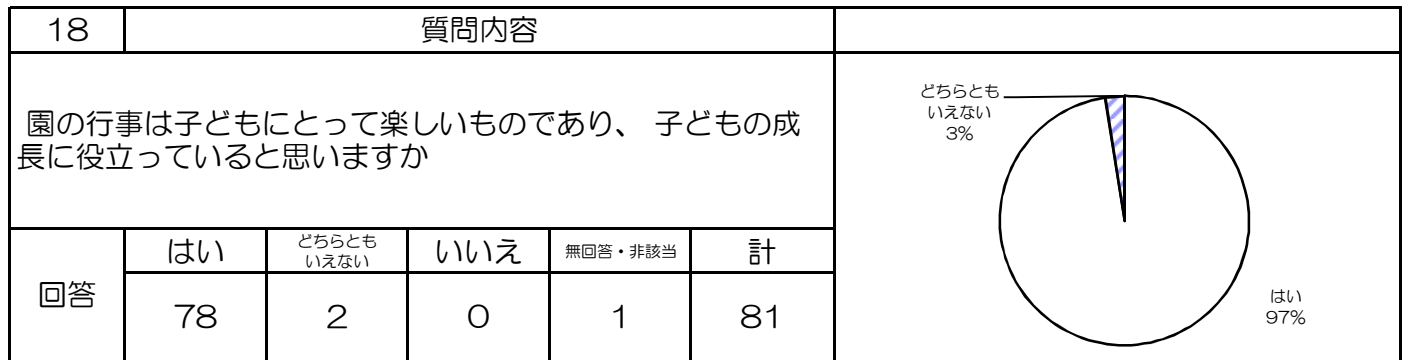
Ⅱ．利用者調査集計結果（保護者アンケート）

利用者調査集計結果（在園児保護者）









21	質問内容					
回答	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答・非該当	計	
	57	17	3	4	81	

施設内で感染症（インフルエンザ、風疹、とびひ、おたふく風邪等）が発生した際には、必要に応じてその状況について連絡がありましたか

22	質問内容					
回答	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答	計	
	71	8	1	1	81	

園は地域と協力して交通安全、地震・火災、防犯などについて安全を高める努力をしていますか

23	質問内容					
回答	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答・非該当	計	
	56	19	5	1	81	

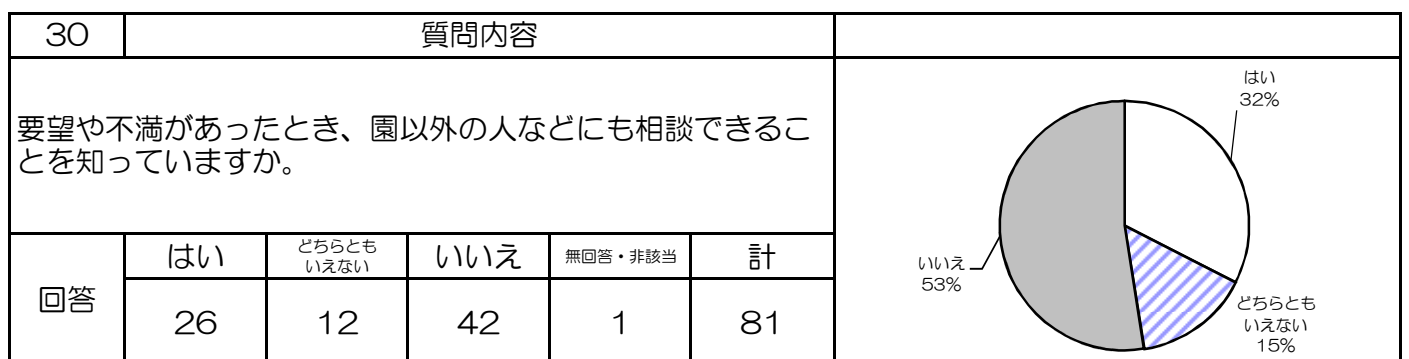
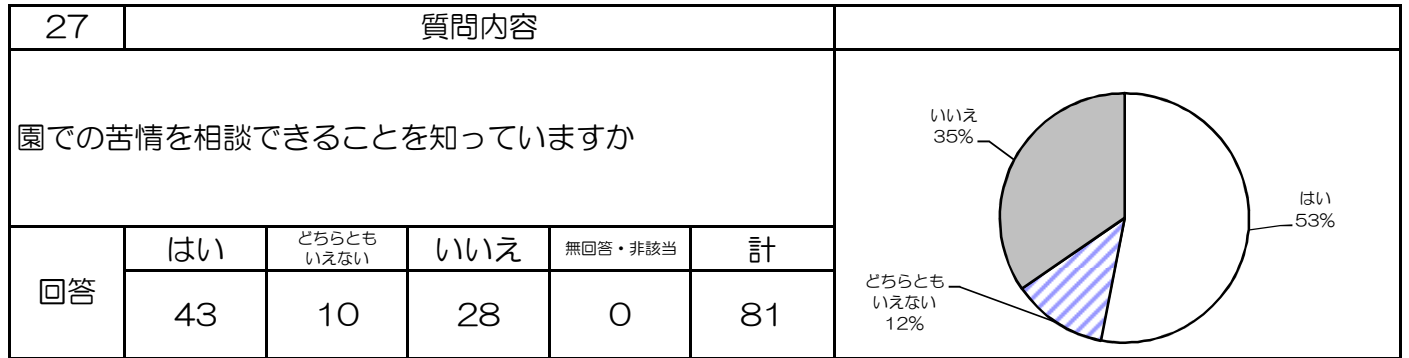
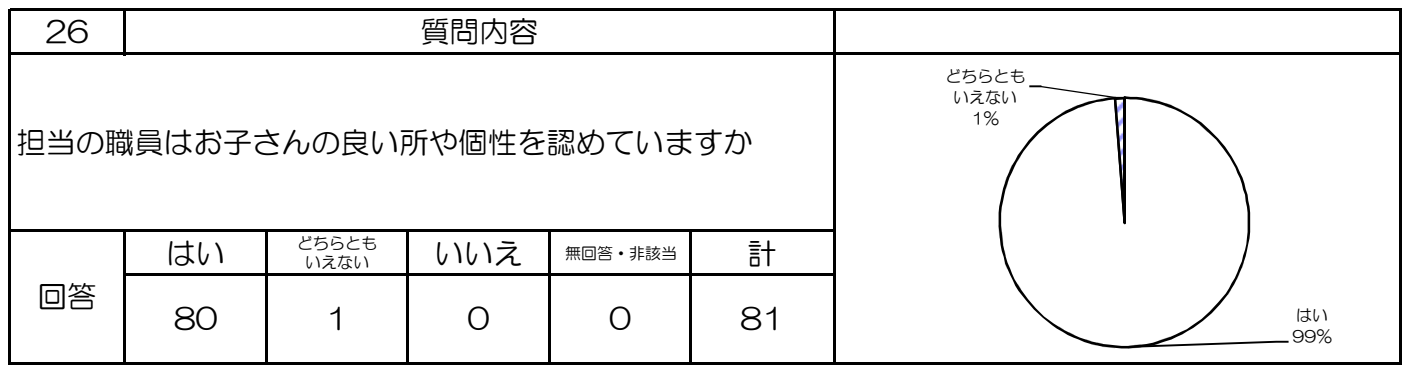
行事等を通して、地域住民との交流を図っていると思いますか

24	質問内容					
回答	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答・非該当	計	
	73	6	1	1	81	

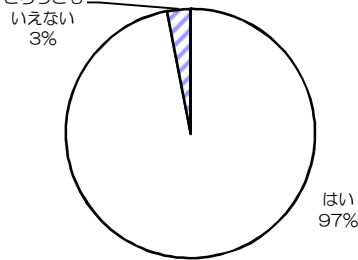
職員はあなたや子どもに関するプライバシー（秘密）を守っていますか

25	質問内容					
回答	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答・非該当	計	
	75	5	0	1	81	

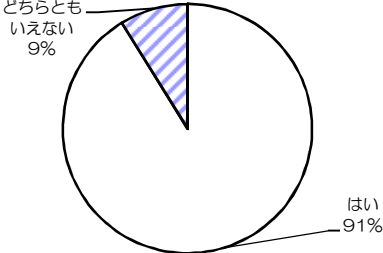
お子さんは園で大切にされていると思いますか



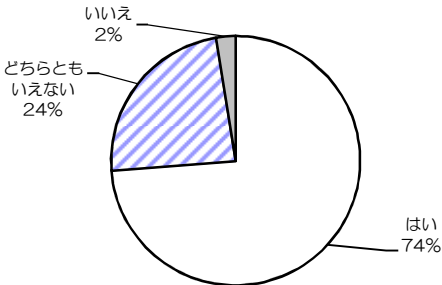


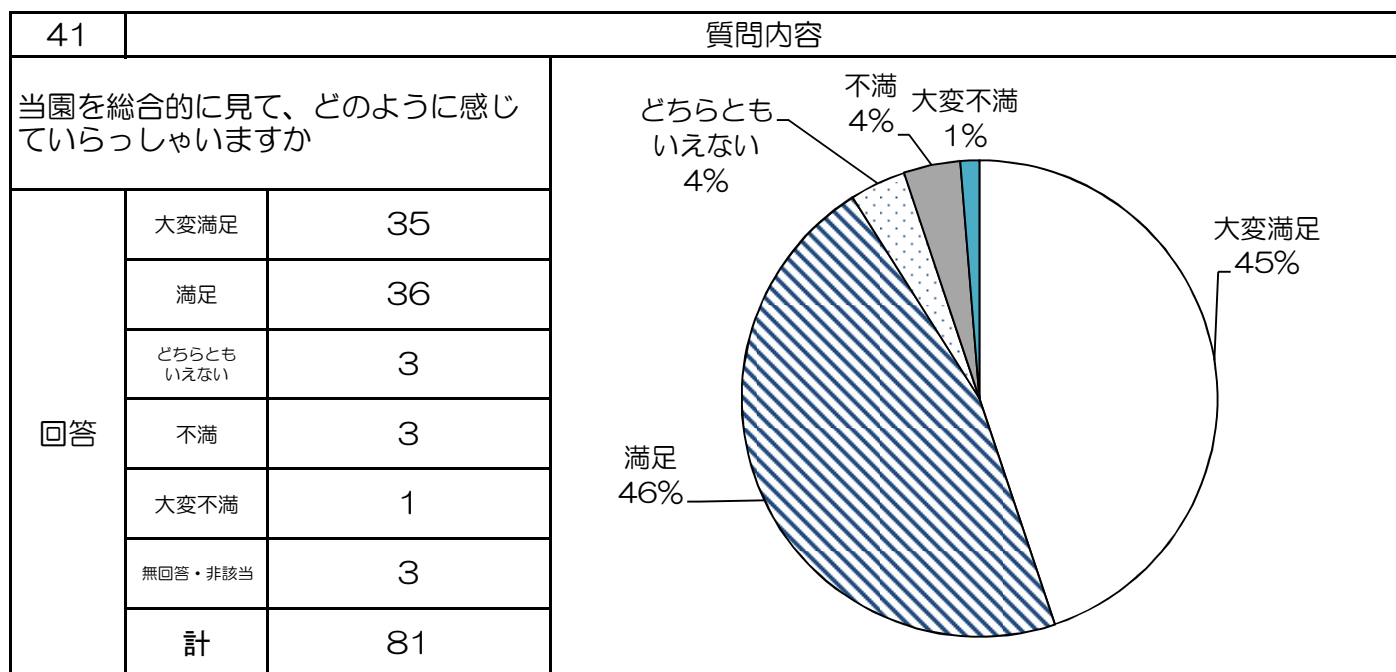
36		質問内容					
【35.の質問に「はい」と答えた方に】 問合せまたは見学の際、快く対応してくれましたか							
回答	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答・非該当	計		
	64	2	0	15	81		

37		質問内容					
いろいろな体験や遊びを通して、遊びへの意欲や主体的な態度が育っていますか						どちらとも いえない 2% はい 98%	
回答	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答・非該当	計		
	79	2	0	0	81		

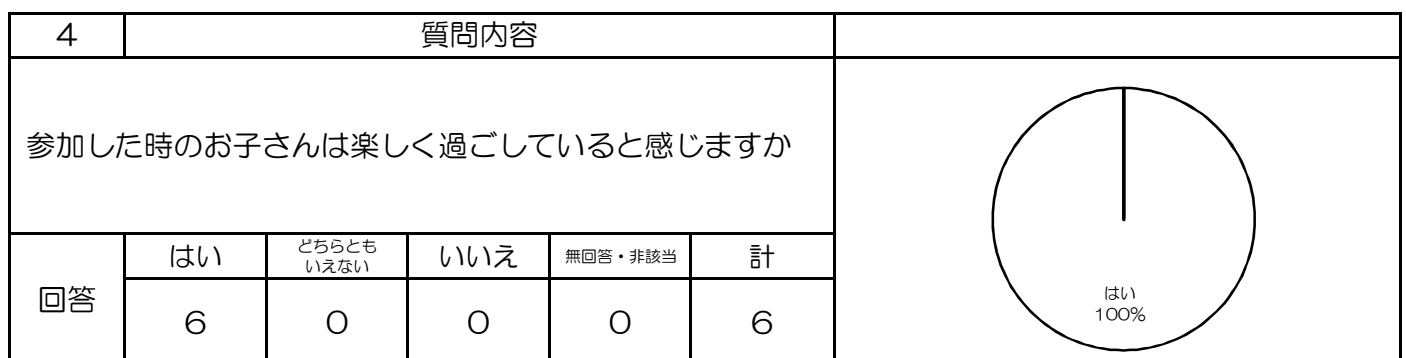
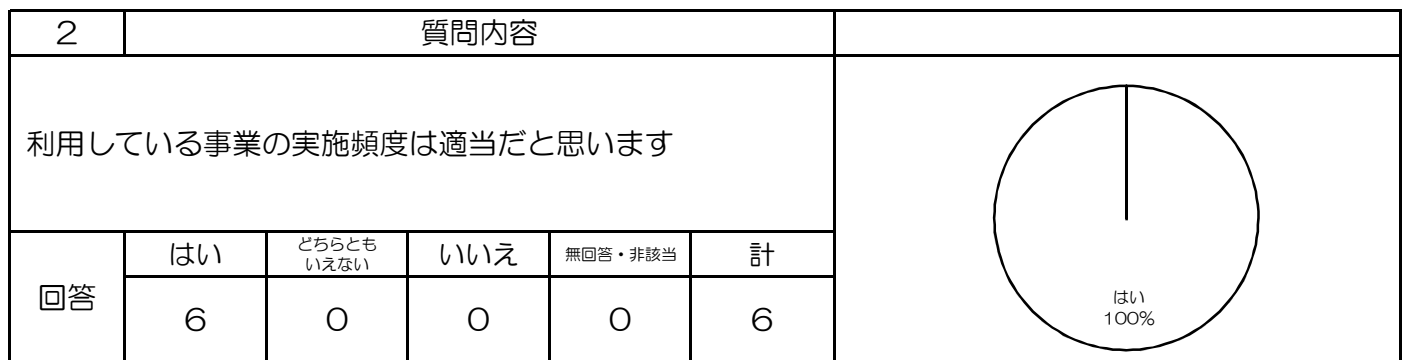
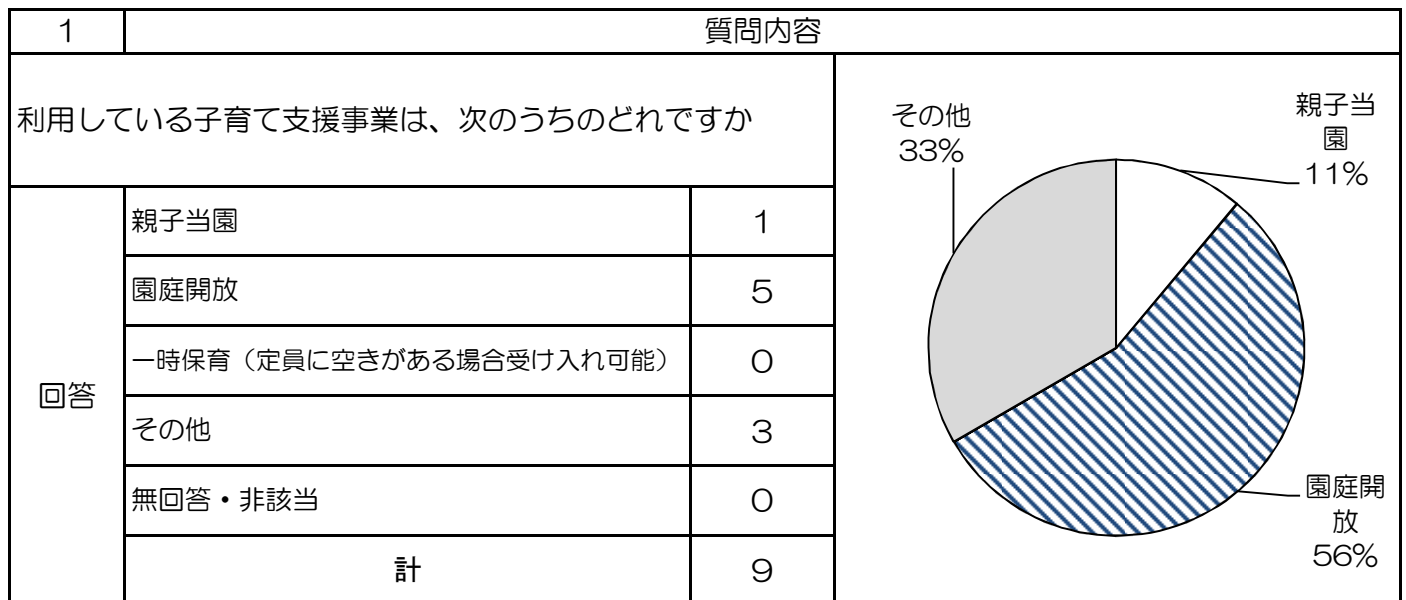
38	質問内容					
幼児は登園するのを楽しみにし、充実した園生活を過ごしていますか						
回答	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答・非該当	計	
	72	7	0	2	81	

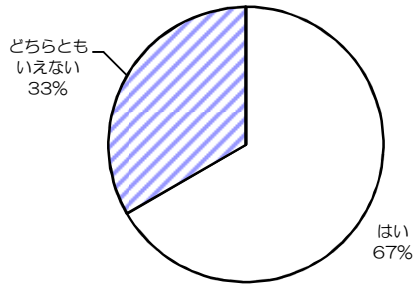
39	質問内容					
この施設は、幼児教育や預かり保育などの幼稚園機能、生活の場として特性を活かした教育やこまやかな養護を行う保育所機能、それぞれの長所が共に活かされた施設だと思いますか						いいえ 6% どちらともいえない 24% はい 70%
回答	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答・非該当	計	
	55	19	5	2	81	

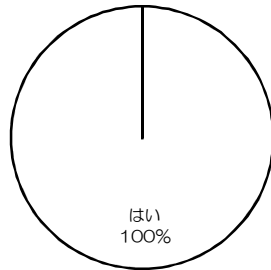
40	質問内容					
この施設のように幼稚園と保育園の機能を一体的に提供する認定こども園が増えるとよいと思いますか						
回答	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答・非該当	計	
	59	19	2	1	81	

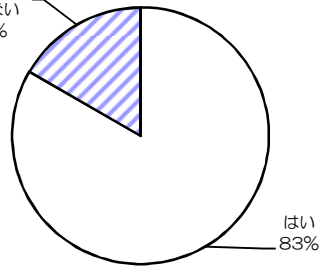


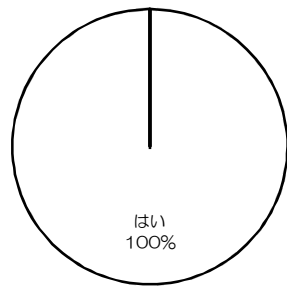
利用者調査集計結果（子育て支援事業の利用保護者）

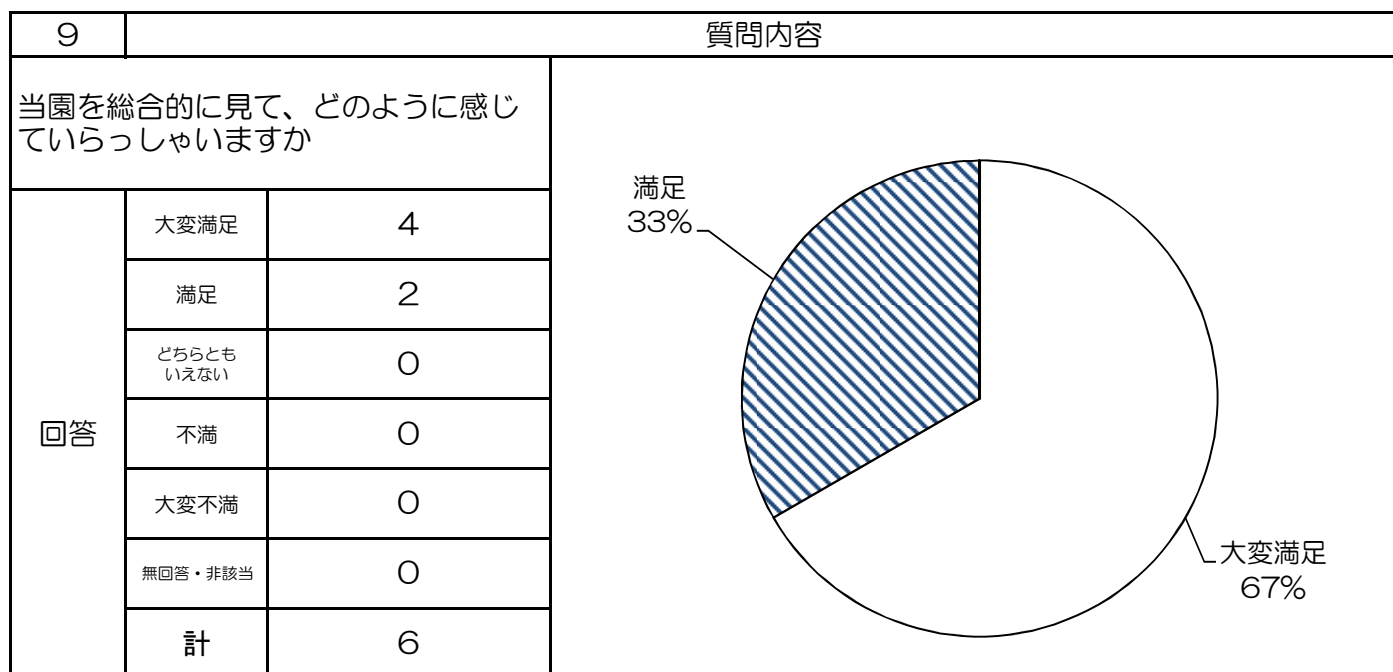


5	質問内容					
親同士の交流ができましたか						
回答	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答・非該当	計	
	4	2	0	0	6	

6	質問内容					
この施設は認定こども園であることを知っていますか						
回答	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答・非該当	計	
	6	0	0	0	6	

7	質問内容					
【6. で「はい」と答えた方】 認定こども園とはどのような施設か知っていますか						
回答	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答・非該当	計	
	5	1	0	0	6	

8	質問内容					
この施設のように、幼稚園と保育園の機能を一体的 に提供する認定こども園を利用したいと思いますか						
回答	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答・非該当	計	
	6	0	0	0	6	

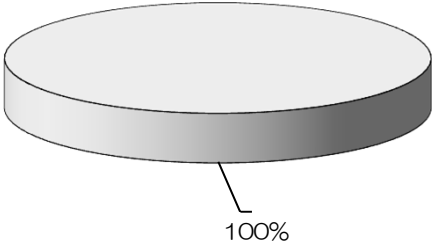


Ⅲ. 職員調査集計結果（職員アンケート）

職員アンケートの見方

①構成：職員集計①（組織マネジメントの分野）、職員集計②（教育・保育の分野）

②回答者属性：職員層を、「リーダー層」「一般」「その他」に区分して集計

1-1-1	評価項目	回答者の属性	① 評点			計				
			A	B	C					
園が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している		全体	28	7	0	35				
		リーダー層	5	0	0	5				
		一般	23	7	0	30				
		その他	0	0	0	0				
標準項目						②	はい	いいえ	無回答	分からない
ア	園が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）を明示している					34	0	0	0	1
イ	園が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている					34	0	0	0	1

①

【評点】東京都の第三者評価では、平成21年度より、「ABC」の評点は廃止。職員自己評価の集計では、結果分析のために残した。見方は、以下の通り。

- ・ A：すべての標準項目に該当する取り組みがあると判断した人数
- ・ B：一つ以上の標準項目について、該当する取り組みがないと判断した人数
- ・ C：すべての標準項目について該当する取り組みがないと判断した人数。

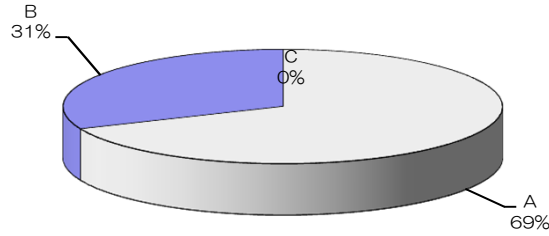
これらの分布（グラフ）を見ることにより、各評価項目における職員の認識の幅を確認。

②

各標準項目における回答の内訳。これらを見ることにより、各標準項目における職員の認識の幅を確認。

カテゴリー1 リーダーシップと意思決定

サブカテゴリー1 認定こども園が目指していることの実現に向けて一丸となっている

1-1-1	評価項目	回答者の属性	評点			計				
			A	B	C					
園が目指していること (理念、基本方針)を明 確化・周知している		全体	24	11	0	35				
		リーダー層	8	0	0	8				
		一般	7	2	0	9				
		その他	9	9	0	18				
標準項目							はい	いいえ	無回答	分からない
ア	園が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）を明示している						26	0	0	1
イ	園が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている						23	0	0	4
ウ	園が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、保護者の理解が深まるような取り組みを行っている						23	0	0	4
エ	重要な意思決定や判断に迷ったときに、園が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）を思い起こすことができる取り組みを行っている（会議中に確認できるなど）						22	0	0	5

1-1-2	評価項目	回答者の属性	評点			計
			A	B	C	
管理者（認定こども園長）は自らの役割と責任を職員に対して表明し、園をリードしている	全体	31	4	0	35	
	リーダー層	8	0	0	8	
	一般	8	1	0	9	
	その他	15	3	0	18	

Category	Count	Percentage
A	31	89%
B	4	11%
C	0	0%

標準項目		はい	いいえ	無回答	分からない
ア	管理者（認定こども園長）は、自らの役割と責任を職員に伝えている	25	0	0	2
イ	管理者（認定こども園長）は、自らの役割と責任に基づいて行動している	24	0	0	3

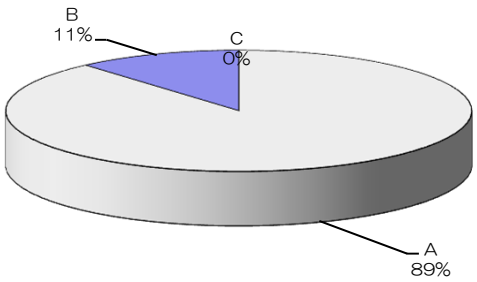
1-1-3	評価項目	回答者の属性	評点			計
			A	B	C	
重要な案件について、 管理者（認定こども園 長）は実情を踏まえて 意思決定し、その内容 を関係者に周知してい る	全体	19	16	0	35	
	リーダー層	7	1	0	8	
	一般	4	5	0	9	
	その他	8	10	0	18	

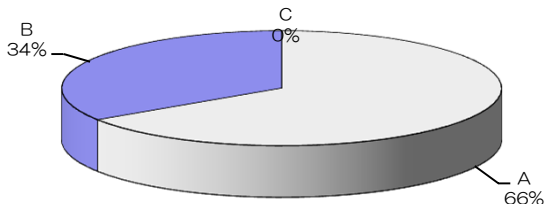
Category	Count	Percentage
A	18	54%
B	16	46%
C	0	0%

標準項目		はい	いいえ	無回答	分からない
ア	重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている	19	0	1	7
イ	重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	21	1	1	4
ウ	保護者に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	23	1	1	2

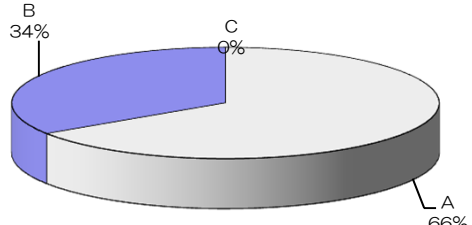
カテゴリー2 経営における社会的責任

サブカテゴリー1 社会人・教育機関として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる

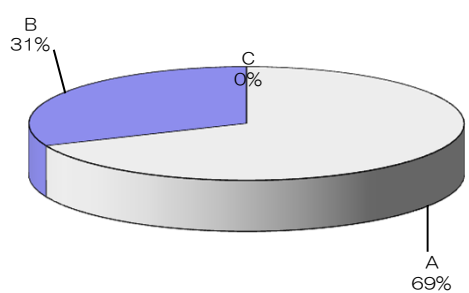
2-1-1	評価項目	回答者の属性	評点			計			
			A	B	C				
社会人・教育・保育に従事する者として守るべき法（就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律、児童福祉法、学校教育法、消防法、学校保健法、労働基準法等）・規範・倫理などを周知している	全体	31	4	0	35				
	リーダー層	8	0	0	8				
	一般	9	0	0	9				
	その他	14	4	0	18				
標準項目						はい	いいえ	無回答	分からない
ア	幼児教育に従事する者として、守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳）などを明示している					25	0	0	2
イ	全職員に対して、守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳）などの理解が深まるように取り組んでいる					25	0	0	2

2-1-2	評価項目	回答者の属性	評点			計			
			A	B	C				
第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている	全体	23	12	0	35				
	リーダー層	6	2	0	8				
	一般	7	2	0	9				
	その他	10	8	0	18				
標準項目						はい	いいえ	無回答	分からない
ア	第三者による評価の結果公表、情報開示など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる					23	0	0	4
イ	透明性を高めるために、地域の人々の目にふれやすい方法（事業者便り・会報など）で地域社会に園に関する情報を開示している					22	2	0	3

サブカテゴリー2 地域の福祉に役立つ取り組みを行っている

2-2-1	評価項目	回答者の属性	評点			計			
			A	B	C				
園の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある	全体	23	12	0	35				
	リーダー層	6	2	0	8				
	一般	6	3	0	9				
	その他	11	7	0	18				
標準項目						はい	いいえ	無回答	分からない
ア	園の機能や専門性は、保護者に支障のない範囲で地域の人に還元している（施設・備品等の開放、個別相談など）					24	0	0	3
イ	地域の人や関係機関を対象に、園の機能や専門性をいかした企画・啓発活動（研修会の開催、講師派遣など）を行っている					19	3	0	5

2-2-2	評価項目	回答者の属性	評点			計
			A	B	C	
地域の関係機関との連携を図っている	全体		24	11	0	35
	リーダー層		5	3	0	8
	一般		7	2	0	9
	その他		12	6	0	18

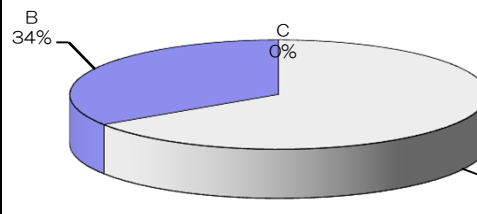


Category	Count	Percentage
A	24	69%
B	11	31%
C	0	0%

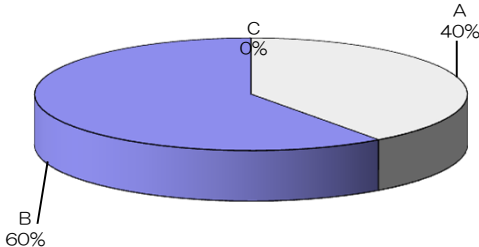
標準項目		はい	いいえ	無回答	分からない
ア	地域の関係機関のネットワーク（園連絡会など）に参画している	25	0	0	2
イ	地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている	20	0	0	7

カテゴリー3 保護者の意向や地域・事業環境の把握と活用及び中長期目標と計画

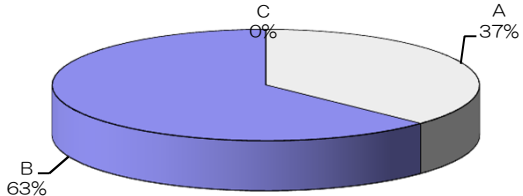
サブカテゴリー1 保護者の意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している

3-1-1	評価項目	回答者の属性	評点			計			
			A	B	C				
保護者一人ひとりの意向 （意見・要望・苦情）を多様な方法で把握し、迅速に対応している（苦情解決制度を含む）	全体	23	12	0	35				
	リーダー層	7	1	0	8				
	一般	5	4	0	9				
	その他	11	7	0	18				
標準項目						はい	いいえ	無回答	分からない
ア	苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、保護者に伝えている					19	2	0	6
イ	保護者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる					26	0	0	1

3-1-2	評価項目	回答者の属性	評点			計			
			A	B	C				
保護者の意向の集約・分析と教育・保育の向上への活用に取り組んでいる	全体	27	8	0	35				
	リーダー層	7	1	0	8				
	一般	8	1	0	9				
	その他	12	6	0	18				
標準項目						はい	いいえ	無回答	分からない
ア	保護者アンケートなど、園側からの働きかけにより保護者の意向を把握することに取り組んでいる					26	0	0	1
イ	事業者が把握している保護者の意向を取りまとめ、保護者から見たサービスの現状・問題を把握している					26	0	0	1
ウ	保護者の意向を教育・保育の向上につなげることに取り組んでいる					25	0	0	2

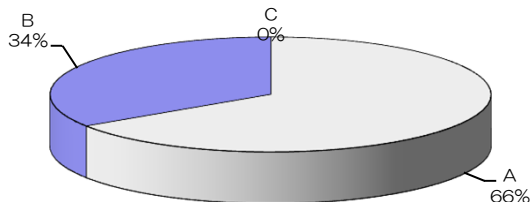
3-1-3	評価項目	回答者の属性	評点			計			
			A	B	C				
地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している	全体	14	21	0	35				
	リーダー層	1	7	0	8				
	一般	4	5	0	9				
	その他	9	9	0	18				
標準項目						はい	いいえ	無回答	分からない
ア	地域の幼児教育・保育や子育て支援に関するニーズの収集（地域での聞き取り、地域懇談会など）に取り組んでいる					15	7	0	5
イ	幼児教育・保育事業全体の動向（行政や業界などの動き）の収集に取り組んでいる					22	1	0	4
ウ	園としての今後のあり方の参考になるように、地域の幼児教育・保育や子育て支援に関するニーズや幼児教育・保育事業全体の動向を整理・分析している					17	5	0	5

サブカテゴリー2 こども園運営に関して、中長期的な計画や目標を策定している

3-2-1	評価項目	回答者の属性	評点			計			
			A	B	C				
外部環境、内部環境を踏まえて、こども園の中長期計画を作成している	全体	13	22	0	35				
	リーダー層	1	7	0	8				
	一般	4	5	0	9				
	その他	8	10	0	18				
標準項目						はい	いいえ	無回答	分からない
ア	事業運営に必要な情報を収集・分析し、中長期的な事業の方向性を定めた計画を作成している					16	2	0	9
イ	次代の組織運営に備え、運営や教育・保育のプロセスの新たなしくみを常に検討している					10	7	0	10
ウ	重要な情報は主要な職員間で共有するため会議等で議論し、重点改善課題として設定されている					22	0	0	5
エ	運営に関し、外部の機関や専門家などの意見を取り入れる努力をしている					19	1	0	7

カテゴリー4 安全管理

サブカテゴリー1 子どもの安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる

4-1-1	評価項目	回答者の属性	評点			計			
			A	B	C				
子どもの安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる ※事故、感染症の発生時などの対応、防犯・防火等	全体	23	12	0	35				
	リーダー層	6	2	0	8				
	一般	6	3	0	9				
	その他	11	7	0	18				
標準項目						はい	いいえ	無回答	分からない
ア	子どもの安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や施設内の役割分担を明示している					25	0	0	2
イ	発生した事故や事故につながりやすい事例などをもとに、再発防止・予防対策を策定している					25	0	0	2
ウ	再発防止・予防対策の実践に向けて、職員、保護者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている					21	0	0	6
エ	地震などの自然災害に対する防災対策を施すなど、施設・設備を安全で適切な状態にしている					25	0	0	2
オ	不審者、外部からの侵入に対する対策がとられている					25	0	0	2
カ	急な病気や感染症に対しての取組の手順が明示されている					24	0	0	3

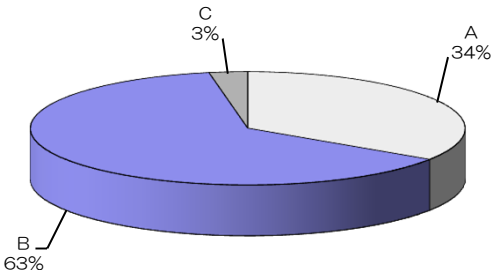
カテゴリー5 職員と組織の能力向上

サブカテゴリー1 園が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる

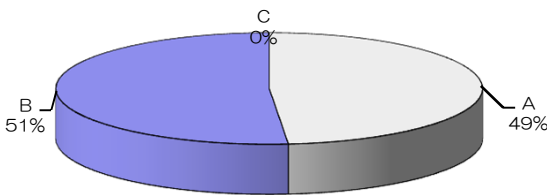
5-1-1	評価項目	回答者の属性	評点			計
			A	B	C	
こども園が目指していることを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる	全体		10	25	0	35
	リーダー層		3	5	0	8
	一般		1	8	0	9
	その他		6	12	0	18

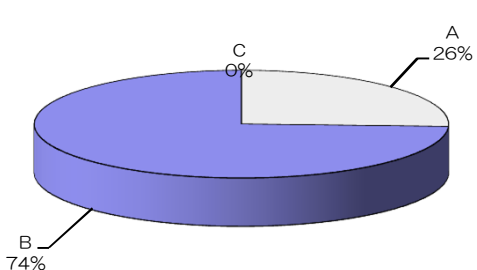
Category	Percentage
B	71%
A	29%
C	0%

標準項目		はい	いいえ	無回答	分からない
ア	園の人事制度に関する方針（人材像・職員育成・評価の考え方）を明示している	14	4	0	9
イ	園が必要とする人材を踏まえた採用を行っている	11	5	0	11
ウ	適材適所の人員配置に取り組んでいる	14	5	0	8

5-1-2	評価項目	回答者の属性	評点			計				
			A	B	C					
職員の質の向上に取り組んでいる		全体	12	22	1	35				
		リーダー層	2	6	0	8				
		一般	5	4	0	9				
		その他	5	12	1	18				
標準項目							はい	いいえ	無回答	分からない
ア	職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している						16	2	0	9
イ	園の人材育成計画と職員一人ひとりの意向に基づき、個人別の育成（研修）計画を策定している						14	5	0	8
ウ	個人別の育成（研修）計画は、職員の技術水準、知識、専門資格の習得（取得）などの視点を入れて策定している						15	7	0	5
エ	職員一人ひとりの個人別の育成（研修）計画に基づいて、必要な支援をしている						15	5	0	7
オ	職員の研修成果を確認し（研修時・研修直後・研修数ヶ月後など）、研修が本人の育成に役立ったかを確認している						19	2	0	6

サブカテゴリー2 職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる

5-2-1	評価項目	回答者の属性	評点			計			
			A	B	C				
職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる		全体	17	18	0	35			
		リーダー層	5	3	0	8			
		一般	6	3	0	9			
		その他	6	12	0	18			
標準項目						はい	いいえ	無回答	分からない
ア	職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している					18	5	0	4
イ	職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる					25	1	0	1
ウ	職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる					22	0	0	5

5-2-2	評価項目	回答者の属性	評点			計			
			A	B	C				
職員のやる気向上に取り組んでいる		全体	9	26	0	35			
		リーダー層	1	7	0	8			
		一般	2	7	0	9			
		その他	4	13	1	18			
標準項目						はい	いいえ	無回答	分からない
ア	職員一人ひとりの取組を評価し、課題の発見や目標設定、研修や自己研鑽の計画に結びつけるなど、総合的な人材育成の視点を持ったくふうを行っている					16	2	1	8
イ	就業状況（勤務時間・休暇取得・疲労・ストレスなど）を把握し、改善に取り組んでいる					10	8	0	9
ウ	職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる					13	3	0	11
エ	福利厚生制度の充実に取り組んでいる					8	5	0	14

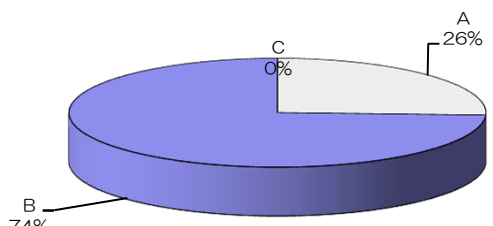
5-2-3	評価項目	回答者の属性	評点			計
			A	B	C	
円滑なコミュニケーションを図り、組織として質の向上に取り組んでいる	全体		7	27	1	35
	リーダー層		0	0	0	0
	一般		0	0	0	0
	その他		0	0	0	0

Category	Percentage
A	26%
B	74%
C	0%

標準項目		はい	いいえ	無回答	分からない
ア	定期的な職員会議などを通して、話し合い、評価・反省を行い、次の保育に活かす体制がある	23	1	0	3
イ	自分の保育を他の職員に見てもらい、互いに検討しあう機会やしくみをつくっている	18	5	0	4
ウ	自園のテーマや重点項目等を決め、継続的に研究を行っている	22	1	0	4

カテゴリー7 情報の保護・共有

サブカテゴリー1 情報の保護・共有に取り組んでいる

7-1-1	評価項目	回答者の属性	評点			計			
			A	B	C				
園が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる	全体	9	26	0	35				
	リーダー層	2	6	0	8				
	一般	1	8	0	9				
	その他	6	12	0	18				
標準項目						はい	いいえ	無回答	分からない
ア	情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定している					20	2	0	5
イ	収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・保管している					24	0	0	3
ウ	保管している情報の状況を把握し、使いやすいように更新している					20	1	0	6

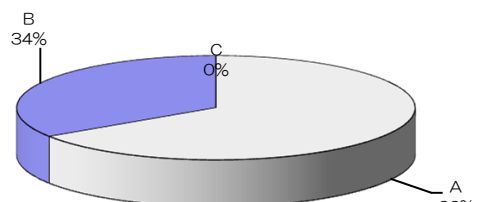
7-1-2	評価項目	回答者の属性	評点			計
			A	B	C	
個人情報法は、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している	全体	7	27	1	35	
	リーダー層	1	7	0	8	
	一般	2	7	0	9	
	その他	4	13	1	18	

Category	Percentage
A	20%
B	77%
C	3%

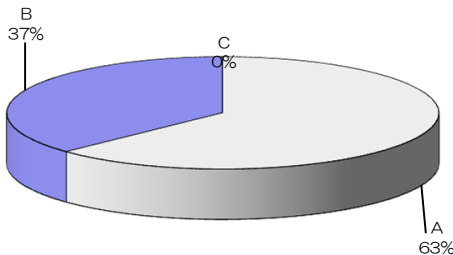
標準項目		はい	いいえ	無回答	分からない
ア	園で扱っている個人情報の利用目的を明示している	24	0	0	3
イ	個人情報の保護に関する規定を明示している	22	0	0	5
ウ	開示請求に対する対応方法を明示している	12	4	0	11
エ	個人情報の保護について職員（実習生やボランティアを含む）が理解し行動できるための取り組みを行っている	22	0	0	5

カテゴリー6 教育・保育の実施のプロセス項目

サブカテゴリー1 事業に関する情報の提供

6-1-1	評価項目	回答者の属性	評点			計			
			A	B	C				
保護者等に対して教育・保育の情報を提供している	全体	23	12	0	35				
	リーダー層	7	1	0	8				
	一般	7	2	0	9				
	その他	9	9	0	18				
標準項目						はい	いいえ	無回答	分からない
ア	保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている					24	1	0	2
イ	園の情報を、行政や関係機関等に提供している					22	0	0	5
ウ	保護者の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している					22	0	0	5

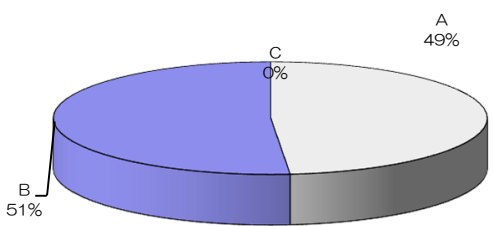
サブカテゴリー2 利用開始・終了時の対応

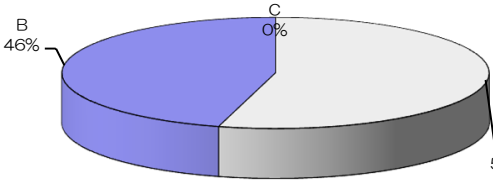
6-2-1	評価項目	回答者の属性	評点			計			
			A	B	C				
利用開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている	全体	22	13	0	35				
	リーダー層	8	1	0	9				
	一般	4	5	0	9				
	その他	10	7	0	17				
標準項目						はい	いいえ	無回答	分からない
ア	利用開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している					23	0	0	4
イ	教育・保育の内容について、保護者の同意を得るようにしている					24	0	0	3
ウ	教育・保育のに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している					19	0	1	7

6-2-2	評価項目	回答者の属性	評点			計
			A	B	C	
利用開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援している	全体		24	11	0	35
	リーダー層		6	3	0	9
	一般		6	3	0	9
	その他		12	5	0	17

標準項目		はい	いいえ	無回答	分からない
ア	利用開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	22	0	0	5
イ	利用開始直後には、子どもの不安やストレスを軽減するよう配慮している	25	0	0	2
ウ	利用前の生活をふまえた支援をしている	23	0	0	4
エ	利用終了時（就学を除く）には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援をしている	20	0	0	7

サブカテゴリー3 計画の策定と着実な行動

6-3-1	評価項目	回答者の属性	評点			計			
			A	B	C				
こども園としての教育課程は、理念・基本方針に基づき策定されている	全体	17	18	0	35				
	リーダー層	4	5	0	9				
	一般	5	4	0	9				
	その他	8	9	0	17				
標準項目						はい	いいえ	無回答	分からない
ア	教育課程の策定にあたっては、全職員がかかわっている					21	3	0	3
イ	教育・保育の基本方針や地域の実態を踏まえて策定している					23	0	0	4
ウ	就労状況など保護者の実情を考慮して策定している					19	2	0	6
エ	教育課程は入園時や年度当初、改定時に保護者に説明している					22	2	0	3

6-3-2	評価項目	回答者の属性	評点			計			
			A	B	C				
子どもの発達や状況に応じた指導計画を策定している		全体	19	16	0	35			
		リーダー層	6	3	0	9			
		一般	4	5	0	9			
		その他	9	8	0	17			
標準項目						はい	いいえ	無回答	分からない
ア	年齢ごとに指導計画を作成している					26	0	0	1
イ	子どもの発達や状況に応じて指導計画の作成・評価・見直しを行っている					24	0	0	3
ウ	評価・改訂にあたっては、複数の職員が参画している					23	0	0	4
エ	評価・改訂にあたっては、保護者の意向も反映している					15	4	0	8

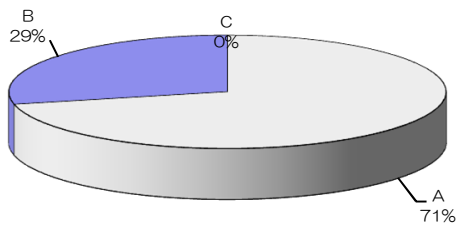
サブカテゴリー4 個別状況に応じた計画策定・記録

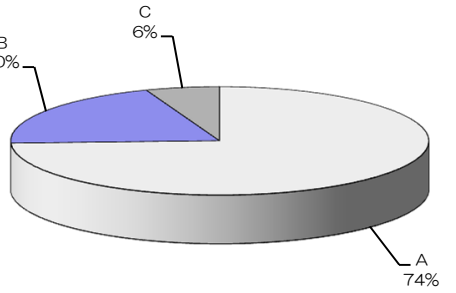
6-4-1	評価項目	回答者の属性	評点			計				
			A	B	C					
定められた手順に従ってアセスメントを行い、子どもの課題を個別の援助場面ごとに明示している	全体	16	19	0	35					
	リーダー層	3	6	0	9					
	一般	4	5	0	9					
	その他	9	8	0	17					
標準項目							はい	いいえ	無回答	分からない
ア	子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している						25	1	0	1
イ	子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している						17	1	0	9
ウ	アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている						13	3	0	11

6-4-2	評価項目	回答者の属性	評点			計
			A	B	C	
必要に応じて、子どもの様子や保護者の希望、関係者の意見を取り入れた個別の指導計画を作成している	全体		13	22	0	35
	リーダー層		1	8	0	9
	一般		5	4	0	9
	その他		7	10	0	17

Category	Percentage
A	37%
B	63%
C	0%

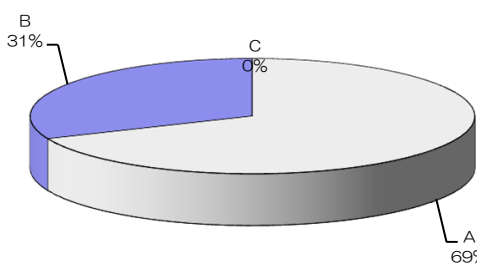
標準項目		はい	いいえ	無回答	分からない
ア	計画は、子どもの様子や保護者の希望を尊重して作成、見直しをしている	20	1	0	6
イ	計画を保護者にわかりやすく説明し、同意を得るようにしている	19	3	0	5
ウ	計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直している	21	1	0	5
エ	計画を緊急に変更する場合のしくみを整備している	14	2	0	11
オ	障害の特性を考慮した個別の指導計画を作成している	21	0	0	6
カ	3歳児未満については、個別の計画を作成している※ただし3～5歳児対象の園は非該当	21	0	0	6

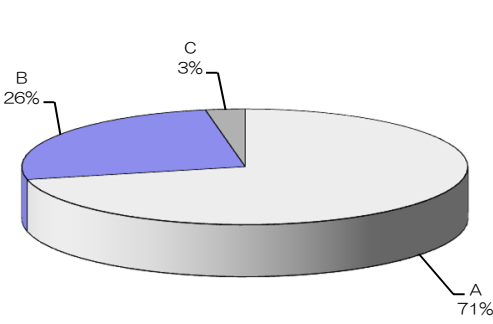
6-4-3	評価項目	回答者の属性	評点			計			
			A	B	C				
必要に応じて、子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している	全体	25	10	0	35				
	リーダー層	6	3	0	9				
	一般	8	1	0	9				
	その他	11	6	0	17				
標準項目						はい	いいえ	無回答	分からない
ア	子ども一人ひとりに関する情報を過不足なく記載するしくみがある					21	2	0	4
イ	計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している					21	0	0	6

6-4-4	評価項目	回答者の属性	評点			計			
			A	B	C				
子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		全体	26	7	2	35			
		リーダー層	5	4	0	9			
		一般	8	1	0	9			
		その他	13	2	2	17			
標準項目						はい	いいえ	無回答	分からない
ア	計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している					20	3	0	4
イ	申し送り・引継ぎ等により、子どもに変化があった場合の情報を職員間で共有化している					26	1	0	0

サブカテゴリー5 教育・保育の実施項目（カテゴリ6-5）

6-5-1	評価項目	回答者の属性	評点			計			
			A	B	C				
子どもの発達を促すための保育を行っている		全体	22	12	1	35			
		リーダー層	3	6	0	9			
		一般	8	1	0	9			
		その他	11	5	1	17			
標準項目						はい	いいえ	無回答	分からない
ア	子ども一人ひとりの発達の過程や生活環境などにより子どもの全体的な姿を把握している					25	2	0	0
イ	子どもの自主性、自発性を尊重し、遊び込める時間の配慮をしている					24	1	0	2
ウ	多様な表現活動や園外活動を計画している					26	0	0	1
エ	文化や習慣の違いなどを認め、互いを尊重する心を育てる工夫をしている					24	0	0	3
オ	障害のある子どもの保育にあたっては、一人ひとりの障害の種類、特性に応じた保育ができるように配慮している					25	0	0	2
カ	異年齢保育を効果的に取り入れている					19	5	0	3

6-5-2	評価項目	回答者の属性	評点			計			
			A	B	C				
幼稚園と保育園の機能が一体的に提供されている	全体	24	11	0	35				
	リーダー層	7	2	0	9				
	一般	5	4	0	9				
	その他	12	5	0	17				
標準項目						はい	いいえ	無回答	分からない
ア	短時間保育枠で入園した子どもと長時間保育枠で入園した子ども同士が、区別なく教育・保育を受ける工夫がされている					23	2	0	2
イ	登園時間、降園時間の違いなどにかかわらず、集団としての教育・保育を実施している					25	0	0	2
ウ	短時間保育利用の保護者と長時間保育利用の保護者の交流に努めている					19	1	0	7
エ	保護者の就労の有無や形態にかかわらず、それぞれの機能が必要に応じて提供されている					24	0	0	3

6-5-3	評価項目	回答者の属性	評点			計			
			A	B	C				
保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		全体	25	9	1	35			
		リーダー層	7	2	0	9			
		一般	8	1	0	9			
		その他	10	6	1	17			
標準項目						はい	いいえ	無回答	分からない
ア	全身を使って活動する事ができる環境を整えている					27	0	0	0
イ	人と関わる力が育つよう配慮している					26	0	0	1
ウ	さまざまな活動や体験をするのに適切な環境を整えている					24	1	0	2
エ	身近な自然や社会とかかわる事ができるよう配慮している					26	0	0	1
オ	伝え合う喜びを味わったり、言葉に対する感覚が養われたりするよう配慮している					26	0	0	1
カ	生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れられるような環境を工夫している					21	1	0	5
キ	さまざまな表現を楽しみ、表現する意欲を十分発揮させることができるような環境を整えている					24	1	0	2
ク	日常の保育の中で、文字・言葉や数量・図形などが、遊びとして無理なく自然にとりいれている					26	0	0	1

6-5-4	評価項目	回答者の属性	評点			計	<table><tr><td>A</td><td>9%</td></tr><tr><td>B</td><td>91%</td></tr><tr><td>C</td><td>0%</td></tr></table>	A	9%	B	91%	C	0%
			A	9%									
B	91%												
C	0%												
A	B	C											
栄養バランスを考慮したうえで、おいしい食事を出している	全体	3	32	0	35								
	リーダー層	0	9	0	9								
	一般	0	9	0	9								
	その他	3	14	0	17								

標準項目		はい	いいえ	無回答	分からない
ア	メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	25	0	0	2
イ	子どもの状態にあった椅子・テーブル等を用意している	24	0	0	3
ウ	食物アレルギーや文化・習慣の違いなど、個別に配慮した食事を提供している	26	0	0	1
エ	快適に食事ができるように環境面でも配慮をしている	25	1	0	1
オ	適温給食を心がけている	25	0	0	2
カ	【0歳児を受け入れている保育所のみ】 乳児の授乳や食事に関しては、乳児一人ひとりの状況やリズムに合わせて行っている	2	0	23	2

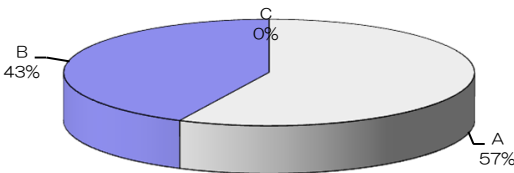
6-5-5	評価項目	回答者の属性	評点			計	 B 49% C 0% A 51%			
			A	B	C					
子どもが心身の健康を回復・維持するための支援を行っている		全体	18	17	0	35				
		リーダー層	4	5	0	9				
		一般	6	3	0	9				
		その他	8	9	0	17				
標準項目							はい	いいえ	無回答	分からない
ア	子どもの健康状態を定期的に記録し、把握している						26	0	0	1
イ	乳幼児突然死症候群（SIDS）、感染症等を予防をするしくみがある						23	0	0	4
ウ	医療的なケアが必要な子どもに対し、支援できる体制を確保している						18	2	0	7
エ	保護者に対して感染症や乳幼児突然死症候群（SIDS）等に関する情報を提供し、予防に努めている						23	0	0	4

6-5-6	評価項目	回答者の属性	評点			計
			A	B	C	
園内の生活が、子どもたちにとって楽しく快適なものになる工夫を行っている	全体	24	11	0	35	
	リーダー層	7	2	0	9	
	一般	7	2	0	9	
	その他	10	7	0	17	

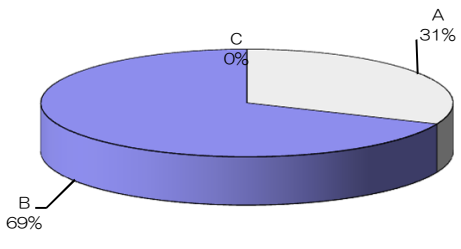
Category	Percentage
A	69%
B	31%
C	0%

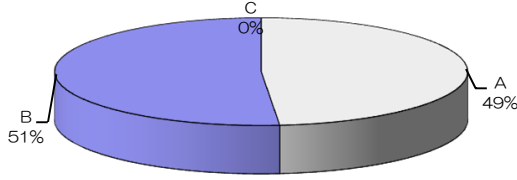
標準項目		はい	いいえ	無回答	分からない
ア	子どもがこども園の生活を楽しめる工夫をしている（誕生会、季節の行事など）	27	0	0	0
イ	園内は快適で落ち着ける環境・空間にしている（清潔さ、採光、換気、照明等）	26	0	0	1
ウ	お昼寝は子どもの状況に合わせる工夫をしている	23	2	0	2

6-5-7	評価項目	回答者の属性	評点			計			
			A	B	C				
こども園と家庭との交流・連携を緊密に行っている		全体	21	14	0	35			
		リーダー層	7	2	0	9			
		一般	6	3	0	9			
		その他	8	9	0	17			
標準項目						はい	いいえ	無回答	分からない
ア	保護者などが常時参観できるしくみがある					23	0	0	4
イ	便り、クラス別保護者会などを活用し、子どものこども園での生活ぶりを家庭に紹介している					27	0	0	0
ウ	保護者の事情に応じて、柔軟な対応をしている					24	0	0	3
エ	幼稚園利用の保護者、保育園利用の保護者がともに施設の行事などに参加しやすい工夫を行っている					22	0	0	5
オ	保護者からの相談に応じる体制を整えている					25	0	0	2

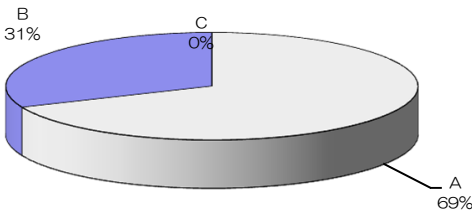
6-5-8	評価項目	回答者の属性	評点			計			
			A	B	C				
虐待防止の取り組みや 育児困難家庭への支援 を行っている		全体	20	15	0	35			
		リーダー層	5	4	0	9			
		一般	5	4	0	9			
		その他	10	7	0	17			
標準項目						はい	いいえ	無回答	分からない
ア	虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている					17	5	0	5
イ	職員が、虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや虐待の事実を把握をした際には、組織としての速やかな対応を決定する体制を整えている					23	1	0	3
ウ	虐待を受けている疑いのある子どもと保護者の情報は、児童相談所、子ども家庭支援センターなど関係機関に照会、通告を行い、その後も連携できるような体制を整えている					23	0	0	4
エ	子どもの発達や育児などについて、懇談会や勉強会を開催し、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている					22	0	0	5

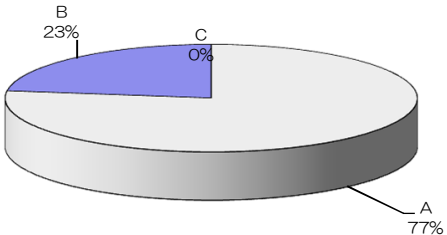
6-5-9	評価項目	回答者の属性	評点			計	 A 37% B 63% C 0%		
			A	B	C				
地域との連携のもとに 子どもの生活の幅を広 げるための取り組みを 行っている	全体	13	22	0	35				
	リーダー層	2	7	0	9				
	一般	2	7	0	9				
	その他	9	8	0	17				
標準項目						はい	いいえ	無回答	分からない
ア	保護者が要望する地域の情報を利用しやすいかたちで提供している					17	3	0	7
イ	こども園の活動や行事に地域の人参加を呼びかける、地域の行事や園活動に参加できるよう配慮する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している					24	0	0	3
ウ	地域の文化・レクリエーション施設等を利用している					21	2	0	4
エ	他の園や福祉施設等との交流を図っている					19	3	0	5
オ	地域の町会やボランティア団体、高齢者クラブ等の活動に子どもたちが参加できないか相談するなど、積極的な交流に向けて取り組んでいる					13	3	0	11
カ	地域の人たちと接する機会（散歩・買い物等）に積極的に交流を図っている					20	4	0	3

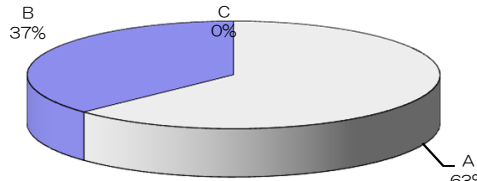
6-5-10	評価項目	回答者の属性	評点			計			
			A	B	C				
地域のニーズに対応した子育て支援事業を行っている	全体	11	24	0	35				
	リーダー層	2	7	0	9				
	一般	3	6	0	9				
	その他	6	11	0	17				
標準項目						はい	いいえ	無回答	分からない
ア	未就園児が親子で登園する日を設けている					22	0	1	4
イ	在園児のほか地域の保護者から教育・保育に関する相談を受け入れている					24	0	0	3
ウ	保護者のニーズに対応した預かり保育を実施している					27	0	0	0
エ	一時保育を実施している					9	12	0	6
オ	その他、多様な子育て支援事業を実施している					22	1	0	4

6-5-11	評価項目	回答者の属性	評点			計			
			A	B	C				
小学校との連携を行っている	全体	17	18	0	35				
	リーダー層	5	4	0	9				
	一般	5	4	0	9				
	その他	7	10	0	17				
標準項目						はい	いいえ	無回答	分からない
ア	小学校の教育内容について理解するための取組を行っている					20	1	0	6
イ	卒園した子どもの情報を得るように努めている					16	1	0	10
ウ	地域の小学校の行事への参加等、交流活動に取り組んでいる					24	0	0	3
エ	認定こども園こども要録を適正に記録し、小学校に送っている					23	0	0	4

サブカテゴリー6 プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重

6-6-1	評価項目	回答者の属性	評点			計	 A 69% B 31% C 0%		
			A	B	C				
子どものプライバシー保護を徹底している	全体	24	11	0	35				
	リーダー層	6	3	0	9				
	一般	8	1	0	9				
	その他	10	7	0	17				
標準項目						はい	いいえ	無回答	分からない
ア	子どもに関する情報（事項）を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている					22	1	0	4
イ	子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている					24	0	0	3

6-6-2	評価項目	回答者の属性	評点			計			
			A	B	C				
教育・保育のの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している	全体	27	8	0	35				
	リーダー層	8	1	0	9				
	一般	8	1	0	9				
	その他	11	6	0	17				
標準項目						はい	いいえ	無回答	分からない
ア	日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している					26	0	0	1
イ	子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に対策を検討し、対応している					24	1	0	2
ウ	子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている					25	0	0	2

6-6-3	評価項目	回答者の属性	評点			計			
			A	B	C				
障害児を受け入れるにあたり、保育内容の配慮を行っている	全体	22	13	0	35				
	リーダー層	6	3	0	9				
	一般	8	1	0	9				
	その他	8	9	0	17				
標準項目						はい	いいえ	無回答	分からない
ア	医療機関や専門機関と連携して、相談・指導・助言を得る体制がある					23	0	0	4
イ	障害児保育について全職員で学習し、話し合える体制ができている					20	1	0	6
ウ	障害児と障害のない子どもとのかかわりに配慮している					26	0	0	1

サブカテゴリー7 こども園業務の標準化

6-7-1	評価項目	回答者の属性	評点			計				
			A	B	C					
手引書等を整備し、こども園業務の標準化を図るための取り組みをしている	全体		19	16	0	35				
	リーダー層		4	5	0	9				
	一般		5	4	0	9				
	その他		10	7	0	17				
標準項目							はい	いいえ	無回答	分からない
ア	手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、園が実施している教育・保育の基本事項や手順等を明確にしている						24	0	0	3
イ	実施している教育・保育が定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを点検している						15	0	0	12
ウ	職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している						20	2	0	5

6-7-2	評価項目	回答者の属性	評点			計				
			A	B	C					
教育・保育の向上を目指して、こども園の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている	全体		17	18	0	35				
	リーダー層		2	7	0	9				
	一般		6	3	0	9				
	その他		9	8	0	17				
標準項目							はい	いいえ	無回答	分からない
ア	実施している教育・保育の基本事項や手順等は改善の時期や見直しの基準が定められている						16	0	1	10
イ	実施している教育・保育の基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案を反映するようにしている						23	0	1	3
ウ	職員一人ひとりが工夫・改善した教育・保育の事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる						19	3	0	5

属性	A	B	C	計
全体	24	11	0	35
リーダー層	6	3	0	9
一般	8	1	0	9
その他	10	7	0	17

様々な取り組みにより、業務の一定水準を確保している

属性	Count	Percentage
A	24	69%
B	11	31%
C	0	0%

標準項目		はい	いいえ	無回答	分からない
ア	打ち合わせや会議等の機会を通じて、教育・保育の基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている	22	1	0	4
イ	職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している	21	3	0	3
ウ	職員全員が、利用者の安全性に配慮した支援ができるようにしている	27	0	0	0
エ	職員一人ひとりの教育・保育の実施方法について、指導者が助言・指導している	25	0	0	2
オ	職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている	26	0	0	1

株式会社 にほんの福祉ネット
東京都福祉サービス第三者評価機関（認証番号：06-168）
〒156-0043
東京都世田谷区松原3丁目38番16-107号
TEL：03- 3323- 8368 FAX：03-6276-7212